

# 東京外国語大学 留学生支援の会



Since 1999

## 会報

開かれたニッポン！日本で学ぶ志にエールを！

～さまざまな体験が留学生を育むことでしょ～

平成19年度も、当会へのご協力・ご参加をお願いいたします。

Pick Up

EVENT

2007

今回は、ホームビジット体験を特集いたします！（10～13ページ）

また鎌倉旅行、4月期バザー、くらやみ祭りなどの留学生の様子をご紹介します。

「たくさんの時間を日本人と一緒に過ごす」と・・・留学生の声もお楽しみに！（13～14ページ）

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1 東京外国語大学留学生課気付 TEL 042-330-5759 FAX 042-330-5762

E-mail [tufs-issa@nifty.com](mailto:tufs-issa@nifty.com)

<http://homepage3.nifty.com/is-tufs/>

## INSIDE

- Page 1 1. ご挨拶
- Page 2 2. お知らせ (連絡室移転について)
- Page 2 3. 事業報告と事業計画 (案)
  - 3-1 平成18年度事業報告
  - 3-2 平成19年度事業計画 (案)
- Page 6.7 3-3 資料—会計報告と予算 (案)
  - 3-4 緊急貸付基金の現状について
- Page 8 4. 活動報告
  - 4-1 鎌倉見学
  - 4-2 バザー報告
  - 4-3 くらやみ祭り参加
  - 4-4 ホームビジット・ホームステイ報告
    - 受け入れ家庭の皆様 各位
    - 留学生3人受入記
    - ただ短い3日間
- Page 13 5. 留学生の声
  - 茶道部活動を通じて
  - 在日10年、忘れられない新年会
- Page 15 6. 会員の声
  - 留学生担当職員の思い
- 7. 新規ご入会とご寄付の御礼
- Page 16 8. これからの活動
- 9. 幹事会

## FOCUS



### 1. ご挨拶

#### 留学生の生活支援と

#### 相互の友好親善の促進のために

副会長 笹岡 太一

#### 1. 平成18年度には「緊急貸付基金」を増やすことができました

会員の皆様からの貴重な会費やご寄付を資金として、平成18年度にも、留学生に対する生活援助や日本文化の見学・体験、留学生の相互交流など、多彩な支援事業を行うことができました。

特に今年度には、お二人の会員の方(中嶋前学長、鐘ヶ江元学長)から、『緊急貸付基金』のために格別のご寄付を頂戴いたしました。お陰で緊急貸付基金の額を、平成17年度の321.9万円から455万円に増やすことができました。

この基金から、授業料・入学金の納入やアパート契約金・医療費などの支払いに困窮している学生に対し、貸付金を供与し感謝されました。

(以上別掲の平成18年度事業報告・収支決算参照)

#### 2. 平成19年度は「支援の会連絡室」が新しい場所に移り更に積極的に事業を進めます

今まで「支援の会連絡室」は、研究講義棟内の国際交流情報資料室の半分を使わせていただいていたのですが、今年度から、国際交流会館2号館

の一隅を「支援の会連絡室」として専用させていただくことになりました。

新しい「支援の会連絡室」はキャンパスの東端に在って大学本部から離れましたが、国際交流会館は留学生宿泊棟でもあるので、留学生との距離は近くなった利点もあります。また、支援の会だけで使うことができるので、より効率的に事業を企画・実施できるものと思っています。

そのようなわけで、平成19年度事業は、前年度を継承するとともに、語学研修教室の開設や留学生メールネットワークの設定など、積極的に事業を進めてゆきたいと考えています。(以上別掲の平成19年度事業計画・収支予算参照)

### 3. 留学生はたいへん喜び楽しみ感謝しております

本誌の各号には、いろいろな活動報告が載っていますが、それには、緊急貸付金の貸与を受けた人、文化施設の見学に参加した人、ホームステイに招かれた人、悩みごとで支援の会連絡室を訪れた人などの感想文が書き添えてあります。

それによれば、多くの留学生が支援の会の事業に対して、喜び、楽しみ、感謝の意を表しています。本稿の表題として掲げてあります「留学生の生活支援と相互の友好親善の促進のために」は、当支援の会の設立目的ですから、留学生が上記のような感想をもっているということは、一応目的に叶っているといえます。

異国日本にきた留学生は、困ったこと、悩みごと、不快なことなど、留学生であるために生ずる問題を抱えていると思います。我々の立場からは十分理解できない面もあるかも知れませんが、支援の会の諸々の事業が、そのような問題の解決に、いささかでも資することができるので、留学生の日本滞在が心地良いものとなることを願っています。

### 4. 現会員の方には引き続き会員としてのご協力をお願いするとともに、新しく会員になられる方を大歓迎いたします

当支援の会の事業を行うための資金は、会員の方々からの会費及び有志からの寄付金によってまかなわれています。従って、支援の会の事業の拡充のためには、会員数が増えることが必要です。現在767名(3月31日付)の方に会員になっていただいておりますが、引き続きご協力くださるようお願いいたします。また会員以外の方で支援の会事業に関心を持たれる方には、新たに会員として加入されることをお願いする次第です。

## 2. お知らせ

### 留学生支援の会連絡室の移転について

留学生課長 千々岩 高美

本学留学生支援の会は、平成11年6月、東京外国語大学に在籍する留学生などの支援を行うことを目的に発足し、これまで、留学生への日常生活支援や友好・親善イベントの開催を通じて、その目的を果たしてこられました。会員の皆様には、日頃から本学の留学生の生活支援などにご理解とご尽力をいただき、心から敬意と感謝の意を表すところでありました。

さて、本会は、その活動の拠点を研究講義棟1階に留学生課が設置する「国際交流情報資料室」に置き、「留学生支援の会連絡室」として文化活動、留学生からの相談及び留学生と日本人学生との交流の場などに活用して来たところでありました。

しかし、大学当局では、研究講義棟における恒常的な教室及び研究室などの不足の問題の解消を図る一環として、「国際交流情報資料室」を他の場所に移すこととしました。このことを受けて、本会についても、新しく完成した国際交流会館の2号館1階に移っていただくこととなり、5月21日(月)、新しい連絡室がオープンしました。

国際交流会館は学生のキャンパス活動の中心からは少し離れていますが、会館の中には、地域の方々と連携した行事などに利用する交流ホール(2号館)や和室(1号館)などを備えています。これらの施設の活用も含め本会の活動が更に活発に行われることが期待されます。

最後になりますが、移転の計画段階から具体的な引っ越しまでの間、特に春季バザーの開催とも重なり、中嶋会長はじめ関係の方々にご多大なご理解とご尽力をいただきました。紙面をお借りして厚くお礼申し上げますと共に、本学留学生に対する益々のご支援をお願い申し上げます。

## REPORT



### 3. 事業報告と事業計画(案)

#### 3-1 平成18年度事業報告

##### A. 生活援助事業

#### 1. 図書・生活用品を支給するバザールを開催しました

<ul style="list-style-type: none"> <li>●バザーの開催</li> <li>●入院見舞金の支給</li> <li>●緊急貸付金の貸付</li> </ul>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"><b>友好交流事業</b> (一部略)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●国会議事堂見学・ちゃんこ鍋賞味</li> <li>●大相撲初場所千秋楽の見学</li> <li>●鎌倉の史跡・文化財見学</li> <li>●江戸東京博物館見学</li> <li>●各国のお茶とお菓子の会開催</li> <li>●留学生の日本文化体験教室の開催</li> <li>●国際交流の集い</li> <li>●ホームビジット・ホームステイの受け入れ</li> <li>●新年会、七夕茶会、寿司パーティー等の開催</li> <li>●クラシックギター発表会へ参加</li> <li>●近隣小学生と共に将棋教室</li> </ul>
<p><b>生活援助事業</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>広報活動他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●会報の発行</li> <li>●「東京外語会会報」誌に寄稿、掲載</li> <li>●ホームページの運営</li> <li>●会員募集活動</li> <li>●幹事会の実施</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●華道・将棋・茶道・書道・尺八・ギター・日本語・英語各教室</li> <li>●相談対応、情報提供</li> <li>●日本人学生との交流</li> <li>●生活用品の提供</li> <li>●留学生語学講師の斡旋</li> </ul>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"><b>連絡室の活動</b></p>

- (1) 第1回バザール 5月8日～12日  
 場所 研究講義棟1階支援の会連絡室  
 内容 書籍・日用品・衣類・電気製品等  
 (会員・近隣住民等からの提供による)  
 来場者 約200名  
 費用 きわめて廉価で支給
- (2) 第2回バザール 10月16日～20日  
 場所・内容・費用 第1回バザールと同じ  
 来場者 約250名
- 2. 入院見舞金を支給しました**  
 入院5日以上留学生5人に見舞金を支給
- 3. 緊急貸付金を貸付しました**  
 「留学生緊急貸付基金」より、困窮留学生に貸付

- 貸付件数 39件 貸付累計金額 4,185,000円
- 4. 自転車を貸与しました**  
 中古自転車7台を留学生8人に貸与しました

**B. 友好交流事業**

- 1. 日本文化を理解し、体験しました**
- (1) 国会議事堂・江戸東京博物館を見学し、ちゃんこ鍋を賞味しました  
 期日 10月28日  
 参加者 留学生22名、幹事6名、合計28名
- (2) 大相撲初場所千秋楽を見学しました  
 期日 1月21日

参加者 留学生 53 名、幹事等 8 名、  
合計 61 名

### (3) 鎌倉の史跡・文化財見学

鎌倉在住の会員の方々のご協力による

期日 3月21日

見学文化財等 建長寺、鶴岡八幡宮、大仏、  
長谷寺、切り通し

参加者 留学生 32 名、鎌倉在住関係者  
5 名、幹事 4 名、合計 41 名

## 2. 各国伝統的な文化を紹介しました

### (1) 伝統的なお茶とお菓子の説明を聞き、賞味しました(第3回)

期日 6月22日

場所 支援の会連絡室

紹介した国 ドイツ・ロシア・ブラジル

参加者 留学生 22 名、日本人学生 70 名、  
その他 28 名

### (2) 同上(第4回)

期日 12月7日

場所 支援の会連絡室

紹介した国 イラン・エジプト・レバノン

参加者 留学生 30 名、日本人学生 43 名、  
その他 17 名

## 3. 東外大国際交流事業に協力しました

### (1) 留学生の日本文化体験への協力

期日 平成 18 年 12 月 15 日

場所 大学会館・支援の会連絡室

内容 華道・茶道・書道・着物着付け・  
折り紙・墨絵・将棋・囲碁

参加者 留学生 250 名、

### (2) 国際交流の集い(留学生交流懇親会)

日時 平成 18 年 12 月 15 日

場所 大学会館

参加者 留学生 105 名、日本人学生 50 名、  
幹事 15 名、来賓・教職員等 50 名  
合計 220 名

## 4. 会員の協力により友好交流事業を行いました

### (1) 主として会員等による事業

#### ① ホームビジット・ホームステイを受け入れていただきました

受け入れていただいた会員 16 家庭

訪問した留学生数 53 名(延べ人数)

#### ② 五十嵐脩介協賛会員招待による寿司パーティを開きました

期日 11月27日

場所 国際交流会館

参加者 留学生 49 名、幹事等 6 名

#### ③ 中嶋会長が留学生を新年会に招待しました

期日 平成 19 年 1 月 2 日

場所 中嶋会長宅

参加者 70 名

#### ④ 七夕茶会を開きました

期日 7月4日

場所 大学会館和室

参加者 留学生 42 名、茶道部員 8 名、  
幹事 3 名

#### ⑤ 府中市英語クラブへ留学生を講師として派遣しました

期日 2月~3月

派遣数 留学生 10 名

#### ⑥ クラシックギターコンサートを開きました

期日 11月21日

参加者 50 名

#### ⑦ 夏休み将棋教室に参加しました。

期日 8月25日~26日

場所 支援の会連絡室

参加者 留学生 2 名、近隣小学生 12 名

### (2) 支援の会が後援した事業

#### ① 田沢湖研修旅行を後援しました

期日 8月7日~12日

参加者 留学生 10 名、留学生課 4 名、  
会員 1 名

#### ② 留学生支援チャリティコンサートを後援

期日 平成 19 年 1 月 8 日

場所 国立オリンピック記念青少年セン  
ター 聴衆 200 名、幹事 10 名

#### ③ 日本人学生のための国際交流に協力しました

期日 5月24日・31日

内容 インド留学事情

参加者 30 名

#### ④ 府中英語クラブの小田原城見学旅行を後援

期日 12月5日

参加者 留学生 25 名

### (3) 留学生が招待されて参加した事業

#### ① 大国魂神社のくらやみ祭に参加しました

期日 5月3日

参加者 留学生 19 名、幹事 3 名

#### ② 多磨駅前商店会ふれあい祭りに参加しました

期日 5月28日、10月9日

参加者 5 名、7 名

#### ③ 紅葉が丘センター地域文化祭に参加しました

期日 10月19日

参加者 留学生 12 名、幹事 1 名

④久我山稲荷神社のお祭りに参加しました

期日 10 月 7 日

参加者 留学生 2 名、幹事 2 名

5. 「支援の会連絡室」で交流活動を実施

(1) 場所 研究講義棟 1 階国際交流情報資料室

(2) 活動期日 月曜日～金曜日 12:30～16:00

(夏休み等は閉室)

(3) 活動内容

○華道・将棋・茶道・書道・尺八・ギター教室

○留学生からの相談対応、情報提供

○日本人学生との交流

○生活用品の提供

○留学生語学講師の斡旋

○留学生家族への英語指導

C. 広報その他の事業

1. 「支援の会会報」を発行しました

第 22 号平成 18 年 6 月、第 23 号平成

18 年 11 月、第 24 号平成 19 年 2 月

2. 「東京外語会会報」誌に寄稿し、掲載していた

だきました 第 107 号平成 18 年 6 月、

第 109 号、平成 19 年 2 月

3. ホームページを運営しました

アクセス数 アクセス数 5,000 件

内容は、イベントの際に更新

4. 会員募集活動を行いました

(1) 4 月 6 日 東外大入学式の際に保護者に呼びかけ 52 名の方にご入会いただきました

(2) 上記「東京外語会会報」への寄稿文の中で、支援の会への入会をお願いしました

5. 幹事会開催しました

第 1 回平成 18 年 5 月 14 日、第 2 回 6 月

18 日、第 3 回 9 月 30 日、第 4 回 11 月 5

日、第 5 回 12 月 3 日、第 6 回平成 19 年

2 月 20 日、第 7 回 3 月 18 日

6. 会員数

767 人 (平成 19 年 3 月 31 日現在)

3-2 平成 19 年度事業計画 (案)

A. 生活援助事業

1. 緊急貸付金の貸与

1 件 10 万まで、20 人～30 人

2. その他の援助事業

(1) バザーの開催

(図書無償提供、日用品・衣類廉価提供)、

5 月、10 月支援の会連絡室、留学生対象

(2) 入院見舞金の支給 入院 5 日以上の留学生に  
1 人 1 万円約 10 名

(3) 自転車の貸し出し 10 台、期間 1～2 年

B. 友好交流事業

1. 日本文化の体験

(1) 大国魂神社例大祭 (府中くらやみ祭り) 見学  
留学生 19 名、平成 19 年 5 月 3 日

(2) 国会議事堂・江戸東京博物館の見学とちゃん  
こ鍋会食 留学生 25 名、平成 19 年 10 月

(3) 大相撲初場所の見学  
留学生 55 名、平成 20 年 1 月

(4) 鎌倉の史跡・文化財見学  
留学生 25 名、平成 20 年 3 月

2. 各国伝統文化の紹介

(1) 留学生による伝統的なお茶とお菓子の紹介  
平成 19 年 6 月、10 月

(2) 七夕茶会 平成 19 年 7 月、大学会館和室

3. 東外大国際交流事業への協力

(1) 日本の伝統文化体験 (平成 19 年 12 月)

(2) 留学生交流懇親会 (平成 19 年 12 月)

4. 会員等の協力による友好交流事業

(1) ホームビジット・ホームステイの受け入れ

(2) 五十嵐協賛会員による留学生おすしパーティー

(3) 中嶋会長招待の留学生新年パーティー

5. 「支援の会連絡室」の活動

(1) 留学生相談、情報提供

(2) 留学生と日本人学生との交流

(3) 各種教室の開催 (華道、茶道、将棋・囲碁、書道、  
尺八、ギター、日本料理、日本語・英語)

C. 広報その他の事業

1. 『支援の会会報』の発行

第 25 号 (平成 19 年 7 月)、第 26 号 (平

成 19 年 11 月)、第 27 号 (平成 20 年 2 月)

2. 『東京外語会会報』への寄稿

第 110 号 (平成 19 年 6 月)、第 111 号 (平

成 19 年 10 月)、第 112 号 (平成 20 年 2 月)

3. 会員募集のための諸活動

4. ホームページの運営

### 3-3 資料－会計報告と予算（案）

東京外国語大学留学生支援の会 一般会計収支決算平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日

#### 《収入の部》

(単位：円)

科目	項目	予算額	決算額	摘要
前年度繰越金		1,748,040	1,748,040	
会費	会員	1,290,000	1,241,000	3,000 円× 413 口+ 2,000 円× 1 人
	協賛会員	100,000	180,000	2,0000 × 9 名
寄付	一般	300,000	967,870	
	緊急貸付基金	300,000	1,400,000	
その他	バザー等	30,000	272,017	バザー収益・チャリティーコンサート他
	利息他	1,000	1,074	
収入の部合計 (A)		3,769,040	5,810,001	

#### 《支出の部》

(単位：円)

科目	項目	予算額	決算額	摘要
活動費 (友好交流事業)	伝統文化体験費・交流会費	400,000	370,000	国際交流のタベ (大学との共催)
	史跡見学費	110,000	125,170	鎌倉見学
	日本文化見学費	450,000	372,610	大相撲・国会議事堂・江戸東京博物館
	日本文化体験費	180,000	179,000	華道・書道・茶道・将棋・尺八・ギター・合宿研修費他他
	各国文化紹介費	150,000	70,232	茶・菓子・料理・楽器・国花等
活動費 (援助事業)	入院見舞金	100,000	30,000	
活動費小計 (a)		1,390,000	1,147,012	
運営費	ホームページ管理費	150,000	151,815	ホームページ管理費 10,000 円 / 月・ プロバイダー使用料
	消耗品費	30,000	9,981	文具等
	通信費	250,000	234,610	会報発送費
	印刷費	230,000	202,180	会報印刷費・葉書印刷代・コピー代
	会議費	5,000	-	
	連絡室運営費	10,000	4,720	
	郵便振替手数料	40,000	39,040	
運営費小計 (b)		715,000	642,346	
予備費 (c)		100,000	-	
繰入金	緊急貸付基金 (d)	400,000	1,400,000	
合計 (B)	支出の部合計 (a)+(b)+(c)+(d)	2,605,000	3,189,358	
次年度繰越金 (A) - (B)		1,163,040	2,620,643	

(A) - (B) = 5,810,001 - 3,189,358 = 2,620,643 円は、平成 19 年度へ繰越

東京外国語大学留学生支援の会 平成 19 年度一般会計予算 (案)

《収入の部》

(単位：円)

科目	項目	予算額	摘要
前年度繰越金		2,620,643	
会費	会員	1,260,000	3,000 円× 420 名
	協賛会員	180,000	20,000 円× 9 名
寄付	一般	500,000	
	緊急貸付基金	300,000	
その他	バザー等	50,000	
	利息他	1,000	
収入の部合計 (A)		4,911,643	

《支出の部》

(単位：円)

科目	項目	予算額	摘要
活動費 (友好・交流事業)	国際交流行事共催費	400,000	国際交流の夕べ (大学との共催)
	史跡見学費	120,000	鎌倉見学
	日本文化見学費	400,000	大相撲・国会議事堂・江戸東京博物館
	日本文化体験費	250,000	華道・書道・茶道・将棋・尺八・ギター他
	各国文化紹介費	100,000	茶・菓子・料理・楽器・国花等
	交流活動費	100,000	
活動費 (援助事業)	入院見舞金	70,000	
活動費小計 (a)		1,440,000	
運営費	ホームページ管理費	160,000	ホームページ管理費 10,000 円/月・プロバイダ使用料
	消耗品費	30,000	文具等
	備品費	150,000	パソコン購入
	通信費	250,000	会報発送費
	印刷費	270,000	会報印刷費・A4 封筒印刷代・コピー代
	会議費	5,000	
	連絡室運営費	10,000	
	郵便振替手数料	40,000	
運営費小計 (b)		915,000	
予備費	(c)	100,000	
繰入金	緊急貸付基金 (d)	300,000	
支出の部合計 (B) (a)+(b)+(c)+(d)		2,755,000	
繰越金 (A) - (B)		2,156,643	

※次年度への繰越 2,156,643 円

### 3-4 緊急貸付基金の現状について

以下、平成18年度特別会計のご報告をします。

平成18年度特別会計報告（平成18年4月～平成19年3月）	
留学生緊急貸し付け基金総額	4,619,000円 (昨年度基金+会員の方からの寄付、1,400,000円)
貸し付け総額	4,185,000円
現在貸付額	3,560,000円 (18年度に貸与した額2,515,000円) + 18年度以前に貸し出した額1,045,000円)
貸し付け件数	18年度に貸与した件数30件+それ以前9件)
今年度貸し付け理由	授業料入学金 6件 研究調査費 4件 アパート引越 2件 生活費 16件 入院費 2件
残 金	1,059,000円 (平成19年3月31日現在)

## REPORT



### 4. 活動報告

#### 4-1 鎌倉旅行について

鎌倉遠足

関口 洋子  
外語大 44年フランス科卒

初めて鎌倉遠足に同行させていただきました。

「地元民」で、見慣れた景色なのですが、この日は普段とは違った目で鎌倉を見直す、という、私にとっても、たいそう貴重な一日となりました。

その一。長谷駅で30名を越す世界各地からの学生、研究生の皆さんと共に、ガイドをしてくださる望月さんの第一のご注意を聞いたとき、それは始まりました。

「ナショナルホリデー（春分の日）で混雑していて、歩道も狭いけれど、絶対に車道を歩かないこと。」この一声で、世界遺産登録を目指すこの中世都市が、いかにインフラ面で遅れを取っているかを実感。でも午前中の早い時間帯だったので、長谷あたりではのんびり歩きました。

その二。望月さんがやおろ取り出した一枚の地図で鎌倉の成り立ちをひと目で理解できました。「三方を山で囲まれ、南は海という天然の要塞都市」という地理的状況を「ピカソの絵」でユーモラスに解説くださり、さらには紙をひっくり返して年

号を示し、歴史的背景を簡略に説明くださいました。おかげで世界史的な位置づけ、天皇（京都）から離れた地で武士がいかに権威付けを図ったか、鶴岡八幡宮建立の背景など、すんなり理解できました。毎年このように説明をなさるそうです。皆さんにもきちんと大筋が伝わり、目から鱗の解説でした。このほかにも分かりやすい説明が続き、素晴らしいガイドをしていただくと観光の楽しさが倍増する事が良くわかりました。

その三。留学生の皆さんの微笑ましいリラックスぶりが嬉しかったです。多くの方がデジカメを手に、集合記念写真撮影よりマイフォト、なんだなあ、と思いました。日頃、勉強、研究、アルバイトなどで緊張の日々なのでしょうね。せめて今日だけは楽しんでほしい、と心底思いました。きっと写真は故国の家族や友人にメールされることでしょう。八幡様（鶴岡八幡宮のことです）では思いがけず舞殿での神式の結婚式を見ることが出来ました。現代に息づく古き日本を目の当たりにして、感激、興奮のひとつでした。もっとも、これは留学生の方たちと一緒になくても、ミーハーな私は飛んで見に行ってもいいかもしれません。

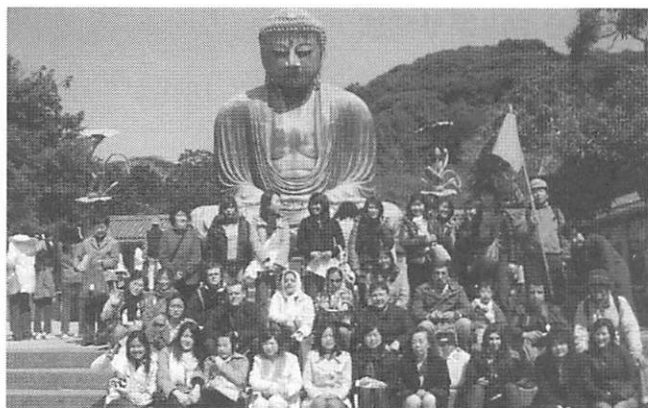
その四。建長寺で、ここが当時代の先端の大学だった、との説明を、中国からの留学生と共に聞いたときは、日中の長い歴史をかつてなく実感しました。ガンダーラからの仏像（コピーでしたが）にはその近隣地域からの留学生が目を輝かせていましたし、この狭い鎌倉を空間的にも時間的にも



大きなスケールで体験しなおすことが出来ました。  
素晴らしい一瞬でした。

書き出すときりがありません。お手伝いする  
はずが、ただただ、楽しませていただいて帰って  
きてしまいました。この一日のために会長はじめ  
皆様の周到なご準備があったことが、鈍感な私に  
も良くわかりました。本当にありがとうございました。

書き出すときりがありませんので、  
見てください～この笑顔 → →



## 4-2 バザー報告

## Bazaar 2007

### バザーへのご協力ありがとうございました

#### 4月期バザーを開催しました

去る4月23日(月)～27日(金)の5日間開催致しました留学生支援のためのバザーには、様々なバザー用品をご寄付いただき、ありがとうございました。各種辞書、書籍、電気釜、レンジ、温風器、トースターなどの電気製品、寝具、衣類、台所用品、タオル、石鹸、洗剤などの日用品、ノート、文房具などなど、すべて留学生が必要とするものばかりでした。

Special  
Thanks!

今回は、第一日目は開催時間前から入り口に留学生の列ができ、部屋一杯に留学生が集まり、大にぎわいでした。大型電気製品は、登録させてくじ引きで当選者を決め、後で取りに来てもらいました。先輩などから昨年のバザーのことを聞いていたからか、よく考え、会員とも相談し、バザーを楽しみながら必要品を選択し、品物を持って帰っていました。因みに、人気の品物は、寝具、テレビ、コンピュータ、冷蔵庫、電子レンジなどでした。

支援の会連絡室にいっぱいあった品物も、金曜日にはほとんどなくなりました。留学生たちは、外大に支援の会があってほんとに良かった！感謝の気持ちでいっぱい！ありがとう！これからもよろしく！と、口々に言って帰って行きました。

また今年の10月に、同じような形で10月入学者のためのバザーを行う予定ですので、これからもよろしく願いたします。バザーの収益金は、約4万円でした。

#### ふかふかのおふとん、ほんとにありがとう!!

メルセデス・カストロ(スペイン)

研究生

私が初めて留学生支援の会連絡室に行ったのは、バザーの時でした。私は、ピンクのふとんセットを一つと黄色のふとんセットを買いました。一つのセットが300円で、本当に安かった。

ふとんは重かったので、私は、支援の会の人にあさって主人と一緒にふとんを取りに来ると言いました。取りに行ったとき、ピンクの掛けふとん

と黄色の敷きふとんがありました。連絡室の人は、他の留学生に間違えて売ってしまったようでした。私は悲しくなっていました。後で、梅田さんが来て、あたらしいふとんセットを送ってあげるの心配しないでと言いました。2日後に私の家に中嶋さんから、新しくきれいなふとんセットが2つ送られてきました。私は、驚いてしまいました。

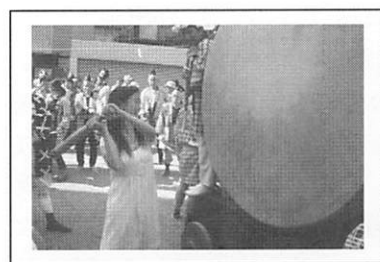
このふとんセットのことは、決して忘れません。毎晩ふとんに入るとき、支援の会のことを思い出して、いい気持ちになります。みんなが優しく手伝ってくれました。親切を感謝します。

### 4-3 くらやみ祭り参加

府中市広報課のお招きで、留学生 18 名が 5 月 1 日、「くらやみ祭り」を見学しました。

くらやみ祭りは、都内屈指の古社で 1900 年の歴史を持つとされる大国魂神社の例大祭で、日本三大奇祭の一つと言われており、5 月 3 日の「競馬式」、4 日の「万灯大会」と「山車行列」、5 日の「太鼓送り込み」と最高の盛り上がりを見せる「御輿渡御」、6 日の「御輿還御」など多くの諸神事が四日間にわたって行われます。

留学生は 5 月 4 日の午後 2 時から 4 時にかけて、市のボランティアの方々のご案内で、6 時から始まる山車行列に備えて待機中の山車や御輿の見物、大太鼓のパフォーマンスの見学と参加、大国魂神社の参拝、参道や山車・御輿のルート of 散策などを楽しみ、特異な大祭の雰囲気を楽しみました。



「大きな太鼓、ストレス解消？  
何事も経験ですから！」



「ハイチーズ」と  
写真のとり方も  
文化ですよ！」

### 4-4 ホームビジット報告

#### ホームビジット、ホームステイ 受け入れ家庭の皆様 各位

ホームビジット、ホームステイをお引き受けくださいましたご家庭の皆様、大変お世話になり、有難うございました。

留学生たちにとって、日本の家庭での滞在は、楽しく刺激的なひと時であるとともに、日本の文化に触れることのできる貴重な体験となりました。皆様方の心温まるおもてなしに対し、多くの留学生は感謝の気持ちを伝えてきました。

しかし、留学生の何人かは、「文化の違い」だけでは済まされないような大変失礼なことをしてしまったこともありました。例えば、日本の交通事情、特に春休みなどの長期休暇、年末年始やゴールデンウィークなどの混雑が全く理解できず、チケットの手配や変更、キャンセルなどでも大変お手数をおかけすることがありました。さらに、ホームステイを受け入れていただいてから、実際にお世話になるまでの期間が長いこともあり、自分の都合の良いように勝手に予定を変更したこともありました。その都度、私どもも、対応に最善を尽くしてまいりましたが、十分とは言えず、皆様方に適切に対処していただき本当に感謝しております。

何人かの留学生たちは、個別に再度ホームビジット、ホームステイをお願いして、友好、交流を深めています。

受け入れていただいた皆様からは報告書や写真などでその様子をお知らせいただきました。どうもありがとうございました。

これからも皆様の御厚意に感謝して、失礼の無いように取り組んでいきたいと思っています。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

ホームビジット・ホームステイ担当 宮田・梅田



#### HOME VISIT & STAY

ホームビジット、ホームステイ受け入れにご関心のある方は是非、当会にお問い合わせください。

### 留学生 3 人受入記

～ 2007/03/27-4/2

館 浩道

3 月 23 日に、梅田さんより、例のごとく行き場のない留学生が 1 人いるので受け入れてもらえるかと電話があった。ラトビアからの留学生を 1 人受け入れることにしたが、なんならもう 1 人加えて 2 人の方が、受入側と留学生側の双方に都合がいいからと、検討してもらうよう伝えた。

1 週間の滞在で仲間がいたほうがいいし、受入側との関係も 1 人より、2 人の方が気を使わなくてもよいのだ。

梅田さんからは 1 日後に 2 人加えて、合計 3 人の受入はどうかと再度連絡があり、6 畳間に 3 人は

きついが、本人たちが構わないのならと伝えた。

受入日になったが、ラトビアのペーテリスはその日の夕方からラトビア大使館で会議があるとのことで、午後2時に東外大の寮に迎えに行き、我が家に荷物を預かる。彼の会議が長引き、その夜は友人のところに転がりこんだようで、翌日の夕方に我が家の前で1時間ほど待っていたという。呼び鈴のことを教えていなかったのだった。

マレーシアのチーシャン、マカオのワイトウの2人は午後5時に大学の寮へ迎えに行き、別に連絡してあったタイのタナワンもクルマに乗せて戻り、歓迎会と桜の開花を祝って、ひと時を過ごした。

事前に食べられないものなどや部屋の使い方などについてメールのやりとりをしていたので、2年前のときよりスムーズに運んだ。自宅周辺と最寄り駅のマップを渡し、毎日の行動予定、帰宅時間、夕食の有無について予定表に書かせた。

3人の間では英語で、アジアの2人同士は広東語で話し、我々とは日本語を使った。

翌、28日は孫たちとスキーの日だったが、2人の留学生は浅草と上野に出かけた。29日、3人は大学の図書館に行き、そこから新宿に回った。30日は吉祥寺の井の頭公園で遊んだという。このように日中は、家族の予定もあり、外で過ごしてもらうことにしたが問題はなかった。31日は自転車3台を用意しサイクリングに誘った。毎日、都心に出かけるのでお金もかかるだろうと考えたからだ。多摩川から八王子、浅川から多摩テックを経て大栗川へと52キロを楽しんだ。サクラ、レンゲ、カタクリなどの自然を楽しみ、帰宅後お茶をたてて体験してもらった。

その夜はお別れの「寿司パーティ」とした。揃ってきたツクシの「卵とじ」も美味しく食べてくれた。

4月1日、ペーテリスは埼玉大学キャンパス内の寮に入るために家族のクルマで府中本町から去っていった。残りの2人は入学手続きのために東大に行った。4月2日朝、2人を三鷹の東大寮まで送り届けた。

全体として、なんでもよく食べ、マナーもよく、受入側にとっても楽しい1週間となった。

以下、留学生からの感想です。



**家族と一緒にいい。**

**国にいる家族と会いたい！**

ペーテリス (ラトビア)

留日センター留学生

**日本人の家庭にステイしてどうでしたか？**

「私ははじめてめ館さんの家庭にステイしたとき、少しとまどいました。なぜなら日本人の家に泊まることがなかったからです。和室などを除いて日本人の家はヨーロッパの家とだいたいおなじですが、ただし利用法をしらなかつたので、少しカルチャー・ショックがありました。でも、たのしかったです。そして、いろいろな事をなりました。館さんの家に泊めていただいて、とてもありがとうございました。親切なもてなしを受けました。」

**食事について**

「食事はおいしくて、カロリーバランスが良いと思います。和食はヨーロッパ人にとって特別なものですが、おいしかったです。くだものとやさいもよかったです。私は寮には行ってから、果物や野菜などをよく食べはじめました。」

**和室利用について**

「和室で寝られたことはすばらしいことでした。最初に泊まった翌日の朝は背中が少しいたかったです。次の朝はもう慣れました。」

**その他感じたことなんでも**

「サイクリングや茶道なども楽しかったです。サイクリングの時にはいろいろな事をならって、次の日、足が少し痛かったです。スポーツはいいですね。家族と一緒にすんでいるのは良い事だと思います。起こしました。国にいる家族と会いたいです。とても懐かしくなりました。夏休みに必ず帰国したいと思います。」

**日本人らしい生活が5日間過ごせた！**

ワイトウ (マカオ)

留日センター留学生

**日本人の家庭にステイしてどうでしたか**

「初めてではありませんが、今度の体験は特別です。なぜかという、日本人らしい生活が5日間過ごせるからです。和室を利用させたり、茶道を教えたり、お風呂に入らせたり、和食をたべさせたりして下さって本当に楽しくて、うれしかったです。」

**食事について**

「毎日おいしい食べ物を作っていただいて、とて

も満足しました。それに、色々な種類があるので、栄養が十分に吸収することができました。また、食べているうちに、様々な知識を教えてください、日本語の勉強に大変役にたつと思います。」

#### 和室利用について

「一言でいえば、和室を使うのはすごく便利なことだ。多目的な和室はかなり空間が活かせるので、ほとんどのことがこの和室に済みます。それに、畳の上にふとんをしいて、寝ることが非常に快適なことです。」

#### その他感じたことなんでも

「とにかく、どうもありがとうございます。お父さんとお母さんは親切で、僕を自分の家にいるように感じさせました。また時間があつたら、きつとお邪魔します。」

### ふすまとしょうじは弱そう！暖かい便座は熱帯の国から見た私にとって・・・？！

チーシャン（マレーシア）  
留日センター留学生

#### 日本人の家庭にステイしてどうでしたか

「あいかわらず伝えたいことをあまりうまく伝えられなかったと感じます。日本語の能力がまだ足りないと感じます。日本についてのこと、特に日本人の考え方を理解する機会です。これが一番重要だと思っています。親切なもてなしを受けました。どうもありがとうございます。」

#### 食事について

「久しく、豊富で、おいしい食べ物を食べていなかったで、とてもうれしく、ありがたく思います。日本でしか食べられない御馳走を紹介していただいて、ラッキーだと思います。」

#### 和室利用について

「ふすまとしょうじは弱そうと見えて、気をつけなくちゃ。強い風が吹いたらどうなりますかとちょっと心配でした。用途の広い、和風の家にとって欠かせない建築の素晴らしい物だと思います。」

#### その他感じたことなんでも

「サイクリングと茶道の体験は貴重な勉強と経験になっています。楽しい思い出にもなります。日本のトイレは驚嘆すべきものだと思います。「押しボタンの数は家のテレビより多い」と言った人もいます。暖かい便座は熱帯の国から見た私にとって偉大な発明です。今度のステイができて、誠に幸運だと思います。お世話になりました。」

## ただ短い三日間

—日本文化をまた続けて勉強したい—

王玲（中国）  
特別聴講生

まず支援会の皆様に感謝したいと思います。ホームステイの機会を提供してくださって、本当にありがとうございました。

私は中国内モンゴル大学の学生で、去年の10月に日本に来ました。専攻は日本文化です。

私が訪問した家族は支援会の幹事の一人で、田中さんの家族でした。5月のゴールデンウィークを利用して、忘れ難いホームステイの生活を過ごしてきました。

最初はずっと田中さんと呼んできた私は、自然にお父さんと呼ぶようになりました。

たぶん、日本では、ホームステイをすれば、もし家族の中には両親と近い年の人がいれば、お父さんとお母さんと呼ぶのはあたりまえなことでしょう。でも、何らか自国の習慣に影響されて、なかなか口に出せなかったです。しかし、とても親切で、親しくて招待してくださって、自分の家にいるじゃないかという気がしました。その気持ちの転換で、自然に呼び方も変わってきました。

ただ短い三日間ですが、心で日本人の親しさが体験できました。それは本当にいい思い出になりました。

きれいで、優しいお母さんはその三日間で、毎日朝早く起きて、おいしい朝食を用意して、夜遅くまで、私たちの面倒を見てくださいました。お母さんの傍で自由で、他人の感じが一切もなかったです。そのような感じが出てくるのは正しいかどうか分かりませんが、自分の心は幸せでいっぱいになってしまいましたので、気がつかないうちに日本の親だと思いました。

お父さんのほうは毎日「江戸散歩」を連れていきました。そして、若い人の気持ちをよく理解してくださって、ディズニーランドにも連れていきました。

ついでに、伝えたいことはお父さんのおかげで、修士論文のテーマも決めるようになりました。それは江戸文化についての話です。今まで、ずっと苦しい問題は修士論文のことで、お父さんの熱心な散歩からやっとテーマが決めるようになりました。本当に心からお父さんを感謝しております。

温かい雰囲気の中で非常に楽しい毎日を過ごしました。帰る日の前にお母さんからいいプレゼン

トもいただきました。その時の気持ちはなかなか文字で伝えられないと思います。そこで家族温かさだけを体験したことではなく、人の温かい心もよく感じました。留学生生活の辛さがよく分かっているお父さんとお母さんは日本の「温かい家族」をくださって、どんなにうれしいでしょう。

実は三日間は短すぎて、本当に毎日やさしいお父さんとお母さんと生活したいです。

今度のホームステイは日本の留学生活の記憶に忘れられないことを残しました。これからも、お父さんとお母さんのことを大事にしたいと思います。

そして、これからは日本文化をまた続けて勉強したいと思います。中国と日本の間は今本当に難しい関係に陥ってしまっていますが、人としての元々のものはいつまでも変えることができないと思います。それは心で親しい友情を作ることでしょう。



「実は三日間は短すぎて、本当に毎日やさしいお父さんとお母さんと生活したいです!!」

人間の温かい心があれば、どんな難しいことでも解決できると信じています。

お世話になってくださる皆様、どうもありがとうございました。

## VOICE

### 4. 留学生の声



## 東外大茶道部活動を通じて

李頌玉 (台湾)

外大卒業生

皆様、こんにちは!

私は台湾から参りまして、李頌玉と申します。2001年に研究生として外大に入学し、三年間勉強しまして三年前に修士卒業しました。その後台湾に帰国して就職し、今回は旧正月の休みを利用して日本に来ました。

私は日本にいる間には、外大の裏千家茶道クラブに参加し、三年間も日本人の学生さんたちと一緒に稽古していました。私のほかにも、何人かの留学生が参加していました。

みんな一緒に稽古したり、合宿に行ったり、お茶会や飲み会をしたりして、すごく楽しかったです。日本人のお友達がいっぱいできて、日本語もだんだんうまくなってきたように感じて、お稽古の日はずっとお楽しみです。卒業して台湾に帰っても、皆さんと連絡を続け、日本に来るとき必ず会います。または皆さんが台湾に来るとき私がいろいろ案内してあげたりしました。楽しい思い出は数え切れないほど作りました。実は、今

度もかわいい後輩の卒業茶会に参加するために来たのです。いつも“李先輩”、“李先輩”と呼んでくれて、言葉にできない不思議な感じで、とても親しくてうれしいですわ!

しかし、今回外大に行って茶道部に行ったとき、今留学生の部員はいますが、続けてやることはできず、休みがちと聞きました。それはとても残念なことです。この場を借りて留学生の皆様私の経験を分け合ひましょう。大体の留学生は同じ悩みを抱えています。日本人学生に溶け込めない!友人は留学生ばかり、日本語の練習にならない!日本に来て半年一年経っても、日本語の聞く能力などは良くなりましたが、喋るのはなかなか上達になれません。そんな時、外大生にとって問題を解決できる方法は支援の会やクラブに参加することが一番いいと思います。

支援の会の方々はいつもいろいろしてくださって、留学生に日本の方と交流する機会を与え、日本文化を体験させます。たとえば、高尾山や鎌倉に見学に連れてくださりまして、野猿峠にある学生ゼミナーハウスで一泊し、留学生と日本学生の交流討論会もやりました。または着物を着せてお茶会の体験もしました。そして、留学生に困難があるときにも優しく手を貸してくださいます。多くの留学生は大変お世話になりました。

そして、外大にはたくさんの種類のクラブがあります。運動系から文化系までいろいろ選べます。

私は茶道部に、同期の留学生知り合いの中、合気道部やフラメンゴ部に参加する人もいます。皆は多くの日本学生に囲まれ、毎週一緒に練習したり、力をあわせて外語祭を準備したり、新歓や打ち上げなど飲み会で一緒に飲んだり(飲酒は18歳から!)、合宿など一緒に旅行したりしていました。たくさんの時間を日本人と一緒に過ごす、日本語も自然に喋れるようになり、留学生活もとても充実でした。日本人の学生さんといろいろ会話して、お互いの考え方や文化も交流してきました。私と同じ経験の留学生に聞けば、誰も“クラブに参

加してよかった!”と答えるでしょう!

留学生のあなた、この貴重な機会をぜひ見逃さないように!あなたの留学生活に悔いなく、楽しい思い出をたくさん作りましょう!

もし、クラブに参加しましたら、ぜひ休まずに帰国まで続けてください!

日本の学生さんたちも、留学生たちに声を掛けてクラブに誘ってくださいね!

## 在日10年、忘れられない新年会

王 軍合(中国)  
大学院後期課程

日本に来て、十数年になります。いわゆる忘年会、新年会に何度も参加してきました。しかし今年(2007)の新年会は私にとっていつまでも忘れられない、心が温まる会でした。

それは、私の在籍している東京外国語大学の、外国人留学生支援会長の中嶋洋子さんが自宅で開いた新年会でした。

実は留学生のために、この支援の会はいろんなイベントを企画してくれています。博士論文専念の為に、私は今までの仕事をやめました。在学期間が超過したため、授業料の免除が申請できず、その支払いに困り果てた私に、この支援の会は温かい手を伸ばしてくれた。普通なら10万しか貸付しない規則でしたが、私に特別の配慮をしてくれて、20万円も貸してくれました。お陰で私は論文の発表などに安心して専念出来ました。

この新年会も中嶋洋子会長が招待したのです。

恒例の忘年会、新年会といえ、殆ど同じグループの人たちの集まりとなりますが、家族ぐるみに参加できる新年会は、やはり少ない。でも私達は家族で招待されました。正直新年なのに子供や家族を家に残して、一人で楽しみに行くのもなんとなく気が引ける所ですが、家族一緒であれば、お楽しみも何倍にもなります。そこは本当に心の温まる所でした。

新年会には、多くの留学生が呼ばれました。メンバーの新旧を合わせると、優に50人以上でした。中嶋邸は勿論お酒に御つまみを用意し、参加者の皆さんもご自慢の手料理を作らせて貰いました。

モンゴル式の揚げパン、キムチ鍋、水餃子、中嶋邸ご自慢のフランス料理。本当に豪勢です。私も故郷の食べ物を作りました。ナンに近い固めの焼餅です。これはやはり醗酵してから鍋で焼くものですが、焼き立てはうまい。失敗しないようにと、心の中で祈りながら、不安を交えて作ってみました。まずまずの出来栄えかな?どうやら皆さんは抵抗なく完食してくれたので、一安心。

世間一般とは違い、この新年会はやはり家族内で開催されたためだろうか、初めての参加なのに全然違和感がない。それどころか、中嶋邸の皆さんと水入らずの家族のように感じました。留学生の皆さんもきっとそう感じたに違いない。やはり異国の地で温かい家族と一緒に過ごす時間の、例えそれが片時であっても、感じた幸せの意味が違うのだと思います。この新年会はその豪勢な料理よりも私には、家族のような水入らずの温かい空気がいい。誰もがその空気を吸い込む瞬間に自ずとお母さん~と呼ぶのだろう。

詳しいことは全部書けませんが、最後は皆が集まって自己紹介をしました。気が付くともう夜九時になっていました。もっと欲しかったのは皆さんと沢山お話をする時間です。やむを得ずお別れをするとき、中嶋邸の皆さんが玄関の所まで送ってくれました。私たちは帰りの電車に乗っていても、その温かい余韻から抜け出せませんでした。

片付けは大変だろうと思いました。いかに中嶋邸が全員出動と言っても、50人が食い散らした後ですからね、深夜までの片付けになるのでしょう。

来年もし私とその新年会に行けたら、勿論腕によりを掛けて焼餅を作って見せますが、更に片付け役をと、自ら決め込んでいます。



### 留学生担当職員の思い

元外大留学生課長・元学務部長 鈴木文子

東京外国語大学事務局の留学生課長と学務部長を務め、留学生について公私共々考える機会を得ました。

課長となった平成10年当時は、国が21世紀に向けて「留学生受入10万人計画」達成に鋭意努力中で、外大では、丁度、短期プログラム(ISEPTUFS)を開始し、日本語を話さない留学生も参加し始めている頃でした。

課長着任と同時に留学生課窓口をとおして胸に迫ってきたことは、外大の留学生一人一人の背後では、ご両親をはじめ多くの人々がその留学生の日本留学に大きな関心と期待を寄せ、将来を託しているに違いないということです。

留学生担当職員は、留学生が日々直面している様々な問題は勿論のこと、受け入れ側である国・大学・地域社会の側の問題も肌で感じるようになります。問題が発生し、どうにかしてあげたいと必死になっても、職務上限界が多々あり、大変もどかしい体験です。

そのような時に、「東京外国語大学留学生支援の会」が立ち上げられ、留学生だけでなく職員にとっても心強いサポーターができ、大変有り難いことでした。個々人の力では不可能と思われることでも、人のネットワークによって可能になることもあり、大きな力となり得ます。

私達は、皆、日本への留学生には充実した生活を送ってもらい、将来、世界のどこであれ大いに飛躍して欲しいと願っていますが、その願いや思いがどれだけ実現化し、留学生や留学生を送り出した母国の人々に伝わっているのか、考える必要があるのではないのでしょうか。留学生を受け入れる日本という国・教育機関・地域社会は、世界の人々にとって自分の子を託せる場であるかどうか、私達は常に心しなければならぬと思っています。



## 新規にご入会いただき ありがとうございます

次の方々が新規にご入会くださいました。今後の活動への参加や、支援の会へ忌憚のないご意見をよろしくご意見申し上げます。

**平成18年度新規入会者** (平成18年7月1日～平成19年3月31日分) \*敬称略、50音順

池田辰昭、邱淑珍、小島照恵、後藤範泰、五味和行、沢田陽子、高城弥生、辻伸三、成瀬よし子、百瀬照美、吉森要子。若松幸子、渡辺紀久子

**平成19年度新規入会者** (平成19年4月1日～平成19年6月30日分) \*敬称略、50音順

青柳信久、幾田結子、井口智子、遠藤雅昭、大泉由美子。川瀬美由紀、川村泰久、清明宏、栗本守章、合志正之、小熊修次、佐藤敦子、澤田利美、志水久雄、鈴木万里、関口洋子、染野谷勝、武司一郎、立部恵子、蔦木順子、津山正孝、中田雅之、西林泰治、新田亜矢子、橋岡弥生、馬場継仁、林孝雄、日盆京子、平山眞、広岡みゆき、広田智美、藤野宮子、前田リサ子、宮崎昌子、山田善万、山本公世、鷺沢祐子

万一、お名前に間違いがありましたらお詫びいたします。なお、当会までお知らせ下されば幸いです。

## ご寄付の御礼

次の方々からご寄付をいただきました。ご協力いただきまして、ありがとうございます。略儀ながら、本会報にて深くお礼申し上げます。

**非会員寄付者** (平成18年11月～平成19年3月31日) \*敬称略、50音順

西多和子

**会員寄付者** (平成18年11月～平成19年3月31日) \*敬称略、50音順

池端雪浦、岡妙子、鎌ヶ江信光、樽村恭弘  
(以上、一般寄付、緊急貸付基金寄付を含む)

本年度に入り、昨年度に続き鎌ヶ江信光元学長よりご寄付をいただきました。

**ご協力いただき、ありがとうございます**

# ACTIVITIES



## 7. これからの活動

1

### 次回は10月予定 各国文化紹介

6月21日(木) 12時~14時 シリア、ウズベキスタン、フィリピンからの留学生がお茶とお菓子を通して、それぞれの国の文化を紹介してくれました。報告は次号会報でお知らせします。お楽しみに！次会は10月を予定しています。

2

### 近日スタート！！ 日本料理教室

多くの留学生の要望があり、新しく日本料理の基礎を学ぶ同好会が始まります。2ヶ月に一度位の予定でご飯の炊き方、お味噌汁の作り方(出汁の取り方も含め)、他、煮物など伝統的な日本料理を少しずつ勉強していく予定です。

3

### 近々実現！！ 言葉の広場

英語を勉強したい、もっと日本語を深めたいという留学生が大勢います。留学生の配偶者や家族も、その必要を感じているようです。すでに一部具現化していますが、留学生の希望をメールで集約、より多くの留学生の希望に沿いたいと現在検討中。近々に実現へ向かう予定です。

## 8. 幹事会

下記の通り、幹事会を開催いたしました。

平成19年度第1回幹事会	4月22日(日)
平成19年度第2回幹事会	5月13日(日)
平成19年度第3回幹事会	6月10日(日)

<幹事会からのお知らせ>ご寄付をいただいた会員の方に、その時々にお礼状(受取証)を今後お送りする予定です。本来そうあるべきものを今まで失礼し1年に3回の会報発行時にお知らせするにとどまっていたことをお詫びいたします。

## 平成19年度 会費納入にご協力を！

会員の皆様には、これまで支援活動へのご協力、ご支援をいただき、ありがとうございます。

平成19年度も引き続き会員としてご支援いただきたく、本年度会費を同封の振込用紙にてお振込くださいます様、お願い申し上げます。振込用紙にメールアドレスをお書き添えいただければ、今後、当会の各種イベントなどの情報をお届けしていきます。

一般会員：年会費 3,000円

協賛会員：年会費 20,000円

Need  
YOUR support

## ご意見、感想など、**会報**への 投稿募集 どしどし お寄せください

当会へのご意見、ホームページやイベントに關しての感想文など、会報への投稿をお待ちしております。お気軽にお問い合わせください。

□ □ □ 編集後記 □ □ □

通常6月に発刊しております本会報ですが、今回事情により発行が遅れました事、お詫び申し上げます。

<お問い合わせ先>

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1  
東京外国語大学 留学生課気付(谷川、梅田)  
TEL: 042-330-5759 FAX: 042-330-5762

E-mail: tufs-issa@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/is-tufs/>



# 東京外国語大学 留学生支援の会

No. 26  
年3回発行

Since 1999

## 会報

### 特別寄稿 「モスクワ留学の光と影」(亀山学長)

「経験のひとつひとつが言葉では言い尽くせない輝きに溢れていた。ところが、…」学長の“泣きつ面に蜂”の体験とは?(2ページに続く)

#### Pick Up

#### Message

2007

「外国での生活には、喜びと悲しさはつきもので、独特の孤独もある…」と綴る学長からの温かく貴重なメッセージをいただきました。  
学長をはじめ、会員の皆様ひとりひとりの気持ちが留学生の今を、未来を支えています!!

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1 東京外国語大学留学生課気付 TEL 042-330-5759 FAX 042-330-5762

E-mail [tufs-issa@nifty.com](mailto:tufs-issa@nifty.com)

<http://homepage3.nifty.com/is-tufs/>

## INSIDE

- Page 1 1. 巻頭言
- Page 2 2. ご挨拶
- Page 3 3. 活動報告
- 3-1 各国文化紹介・お茶とお菓子を通じて  
(ウズベキスタン、シリア、フィリピン)
  - 3-2 七夕茶会
  - 3-3 日本料理教室
  - 3-4 バザー報告
  - 3-5 国会議事堂・江戸東京博物館見学と  
ちゃんこ鍋を囲む懇親会
  - 3-6 バスツアー
  - 3-7 留学生が「国際理解教育」に参加
- Page 8 4. ホームビジット&ステイ
- 4-1 ホームステイ受入れ体験  
—大切な娘たち、7人の留学生
  - 4-2 テンプルステイ受入れ体験  
—留学生を受入れて
  - 4-3 テンプルステイ体験の感想
- Page 10 5. 留学生の声
- 宗旦居士 350年記念茶会に参加して
- Page 11 6. 会員の声
- 私の国際交流
- Page 13 7. これからの活動
8. 幹事会

## FOCUS



### 1. 巻頭言

#### モスクワ留学の光と影

学長 亀山 郁夫

外国に長期滞在した経験は、これまでに二度、1984年と、それから十年後の1994年にあるが、ロサンジェルス・オリンピックが開かれた1984年の記憶は今もって忘れがたい。ペレストロイカの牽引役となったゴルバチョフが登場する前年のことで、旧ソ連の人々は、貧しいながらも、穏やかな日々を楽しんでいた。5月1日のメーデーの日は、友人の誘いで、ゴリキー通りから赤の広場に向かって行進し、レーニン廟のひな壇に立つ当時の書記長チェルネンコらの党幹部たちに遠くから手を振った思い出がある。それから約一週間後の5月9日の戦勝記念日には、モスクワ郊外にあるノヴォデヴィチー修道院墓地を訪れ、長い人々の列のなかに埋もれた。ロシア人の心に刻まれた戦争の傷あとの深さと、社会主義国に生きる彼らの宗教心の篤さに改めて目を瞠らされたのはこのときだった。

三十代半ば、という若さのせいもあって、モスクワでの経験のひとつひとつが言葉では言い尽くせない輝きに溢れていた。ところが、その二ヶ月後、私の留学生活は暗転した。半年を予定していた滞

在の中日にあたる六月末、母が病没したのだ。ヴィザの関係で、結局は、帰国もままならないとわかって、私は、モスクワ川のほとりを歩きながら、泣きに泣いた。泣きっ面に蜂(ロシア語のことわざでは、不幸は東となって)とはこのことだろう。母の死から二ヶ月足らずした八月の中旬、ヴォルガ川流域の都市を旅行中に、スパイ容疑で拘束され、6時間にわたる尋問を受けるというおまけまでついてしまった。

この二つの「事件」は、どうやら私の心にするどい爪あとを残したらしく、その後、しばらくの間、母の死と逮捕の悪夢に代わる代わる付きまとわれることになった。しかし面白いことに、あれから四半世紀近くを経て、私は最近、このとき母の死にめぐり合えなかったことを、不幸と感じなくなった。おそらく、母の死をじかにみとらず、心のなかでしっかりと別れを告げることがなかったせいだと思う。そう、週に二、三度、母が夢みに現れるのである。けっしてにこやかに微笑みかけてくれることはないし、暗く浮かぬ表情をたたえていることが多い。しかし、それでも母であることに変わりはない。しかも、夢のなかの母が、最近とみに身近な存在になっていくような不思議な気さえるのだ。

つい先ごろ、体調の不安を覚えて病院に向かう途中、胸のなかで「お母さん」とそっと呼んでみた。すると、つかのまながら、深いため息のような喜びが心のなかに広がるのを感じた。むろん、こんな私の精神状況を、災い転じて福、とはいうまい。がしかし、だれよりも母を愛している私にとって、それはほとんど僥倖と呼んでいい経験であり、それを経験できる自分を、いまや、姉兄のだれにもまして果報者と考えている。

外国での生活には、喜びと悲しさはつきものである。外国での生活を経験したものでなければわからない、独特の孤独もある。この地球上では、いま、空前の人の移動が起こっているが、外国に住み、外国でまなぶ人々のそうした複雑な思いに心をくばる習慣を忘れて、何がグローバル化か、と思う。

この九月に本学の学長に就任して以来、なぜか、留学生たちの顔色が気になる今日この頃である。



## 2. ご挨拶

### 留学生の生活支援と 相互の友好親善促進のために

会長 中嶋 洋子

#### はじめに

本格的な冬の季節を迎え、日々寒くなってきました。会員の皆様、お元気にお過ごしでしょうか？

例年のことですが、平成19年度の活動事業案、予算案に関して会員の皆様からのご異議はありませんでしたので、承認されたものとさせていただきます。

すでにホームステイ・ホームヴィジット、10月期バザー、各国文化紹介、七夕茶会、国会議事堂見学・江戸東京博物館見学・ちゃんこ鍋を囲む会、今年度から始まった日本料理教室、日本語広場他、連絡室では様々な同好会の活動が順調にすすんでいます。詳細は各活動報告をご覧ください。

#### ご了解いただきたいこと

前号(25号)で、「言葉の広場」(日本語教室)が実現の方向に向かっていることを簡単にお知らせしました。留学生、配偶者、家族などを対象に7月から本格的に活動が始まりました。もとより当大学の専門性の高い日本語教育に抵触しない部分での活動を考えています。会の名称は「日本語広場」としました。

発足にあたり、資格のある講師の方々(4名)は、外部のボランティア団体を通して応募していただいたこともあって、交通費だけは(謝礼はさしあげていません)出費の要があるろう、と幹事会で判断しました。しかし、今年度の十分な予算化を考えずにスタートしてしまいました。ご存知のように、近年の交通費は非常に高く、そのため、繰越金から概算10万円強を補正予算として計上させていただくことを、私ども幹事一同反省を込めて、ご理解、ご了解いただきたいと、ここをお願いを申し上げます。

来年度からは当会の中から講師を依頼するなど十分に再考したいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。

#### 大相撲初場所見学について

恒例行事である大相撲初場所見学は留学生に大変好評ですが、皆様ご存知のように今年度になり、あいついで相撲界に不祥事が発覚しました。この



# REPORT

## 3. 活動報告

ことに関連し、いやしくも厳粛な国技である相撲を、例年と同じように留学生に見学させてよいものかどうか幹事会で話題になりました。いろいろな意見が出されましたが、この1年間だけ東外大に在籍している留学生も多く、彼らにとってはまさにワンチャンスしかないということもあり、そのことを優先し例年どおり計画を進めることにしました。皆様、どうお感じでしょうか？

ちなみに、横綱朝青龍処分後のテレビ報道の中で、東外大の内モンゴルからの留学生(大学院生、卒業生など)が「日本の処分はあまりにも厳しい」などと熱っぽく発言する様子が紹介されていました。

### マリヤムさん(イランからの留学生・研究生)

#### 一家の挑戦

6月の頃だったでしょうか、私が連絡室に出かけた折、可愛い外国人の2人の男の子に会いました。英語で問いかけても日本語で話してみても、なにも答えず、ただ、くりくりした大きな瞳をこちらに向けています。それで、彼らの顔つきからして咄嗟に「イラン?」と聞くと、なんと2人はそのひと言に嬉しそうに大きく頷いたのでした。これがマリヤムさんの息子、ペドラム君(10歳・小学4年生)とパルサ君(8歳・小学2年生)とのはじめての出会いでした。

私自身、わが子4人が小学生のときにオーストラリアで1年間過ごした経験があるのですが、私はそのとき、言葉を一切奪われた子どもたちの切なさを思い出したのでした。

2人は、上記の「日本語広場」にも週2回、休まず参加していて、少しずつ日本語がわかるようになってきました。こちらのいうことは、すでにだいぶ理解できてきていて、彼らの口から日本語が飛び出す日も近いのでは、と期待しています。

マリヤムさんはこの2人のお母さんです。子育てをしながら留学、勉学に励む(大学院入学を目指しています)彼女をできるかぎり支えていきたいと思えます。

皆さんが提供して下さったバザー用品も、一家にたくさん届けられています。日本での生活などについて7ページにマリヤムさん自身の文章が掲載されていますのでご覧下さい。

### 3-1 各国文化紹介・お茶とお菓子を通じて(ウズベキスタン、シリア、フィリピン)

去る6月21日に留学生20名、日本人学生25名、一般5名、幹事6名、計56名が参加し、各国の伝統的なお茶とお菓子を味わいました。

ウズベキスタンのカミラさんは民族衣装を着て、イリナさんはウズベキスタンの伝統品(皿、お湯のみ、プレスレットなど)や国の様子を写真で発表してくれたり、フィリピンのリレットさんは国の行事を紹介してくれたり、内容も充実したものとなりました。シリアのミラさんは、マハシ料理を披露(マハシとは詰め物を意味するそうです)。会場の留学生から「お米の国の日本ですが、日本風ではなく、美味しいシリア風ライスを食べることができ、同じ食品を様々な方法で調理できることを知って素敵な国際交流の体験ができた。」という声もあり、各国から集まる留学生だからこそ発見できることがあるようです。

以下、母国の文化を紹介してくれた留学生の感想です。

一番大切なもの、ピーマン!



ミラ・イスマイル(シリア)

ISEP

6月21日に各国文化紹介のパーティーがありました。このパーティーで自分の国シリアを紹介しました。

紹介するために何か食べ物や飲み物や写真やシリアの特別なタバコの準備をしました。

例えば、作った料理です。この料理の名前はマハシと言います。作るときピーマンが一番大切なもので、ライスや肉やトマトや辛くないスパイスも全部で混ぜて、ピーマンの中に入れて、トマトソースで沸かします。

もちろん、作り方ちょっと大変だったけれども、国を紹介するために楽しかったです。

そして、パーティーにシリアの花お茶を持って行きました。このお茶がおいしくて、とても健康的なお茶です。名前はゾフラトと言います。

後は、シリアのタバコも持って行きました。水タバコです。このタバコが普通のタバコと全然違

います。なぜと言うと、花瓶の形で長いパイプがあり、とても面白いです。

パーティーでシリアと持って行った物を紹介したら、皆さんテストして食べるように皆は私のテーブルで食べたり、飲んだり、してくれました。私のテーブルでたくさん食べ物と飲み物があつたのにすぐ、全部なくなりました。もちろんこれは嬉

しいです。なぜなら、作ったものが「とてもおいしいものだった」意味と分かりました。

パーティーは面白くて、留学生たちは自分の国のことをいい紹介できました。

ありがとうございました。



これがそのシリアのマハシの料理（手前）と水タバコ（奥）



お菓子やお茶、飲べ物について丁寧に説明するフィリピンのリレットさん



お料理以外にもお茶、伝統工芸品を母国から持参したシリアのミラさん



ウズベキスタンの民族衣装を着てくれたカミラさん

## 一番大切なこと、人々と仲良く！

ヤクボワ・カミラ（ウズベキスタン）  
ISEP

最初に自己紹介したいと思います。

私はウズベキスタンから来たヤクボワ・カミラです。ウズベキスタンの首都のタシケントという町で生まれました。タシケントにある国立東洋学大学の2年生です。

去年のときから今までに東京外国語大学で勉強していました。

私にとって初めてこのイベントに参加することで大変光栄しました。いつもお招きいただきありがとうございます。私たちの人間社会において一番大切なことは人々と仲良くすることだと思います。人々が集まり一緒に行動することでこの温かい関係が深められることは間違いありません。

このイベントで自分の国を紹介して、少しでも

皆さんがウズベキスタンについて想像できるようになったら成功だと思います。

皆さんにもすぐくお世話になりました。どうもありがとうございます。

.....

## 3-2 七夕茶会

7月3日（火）、すでに恒例になっている七夕茶会が開かれました。日本の伝統行事である七夕にちなみ、留学生たちが慣れない手つきで筆を使い、短冊に願い事などをしたため、七夕笹に飾るなどした後、作動の基本を学びつつお茶を楽しみました。留学生たちは、講師の三浦先生をはじめ関係者が借り集めた浴衣を着て参加、大変嬉しそうでした。

また、尺八同好会の中島郭山先生の尺八演奏がこの会に一層の色を添えて下さいました。

### 3-3 日本料理教室

前号でお知らせしましたように、7月17日に第1回目の日本料理の作り方の基礎を学ぶ教室が開かれました。多くの留学生の要望があって実現したものです。

講師は当会幹事の井上久美子さんです。

夏休み直前ということもあり、すでに予定が決まっている学生も多く(一部には1学期最後の大事なテストがある学生もいる)、参加者は9名でしたが、お米を丁寧にとぎご飯を炊き、かつおだしを使って味噌汁や栄養たっぷりの肉じゃがを、皆和気藹々と準備しました。それに即席のお漬物も添えられ、食後はスイカのデザートもありました。待ちに待った試食のときには、皆から歓声が上がりました。その表情は、写真をご覧下さればわかります。

今回は、お好み焼き、焼きそばなどの作り方を教えて欲しいと、留学生からのリクエストがありました。

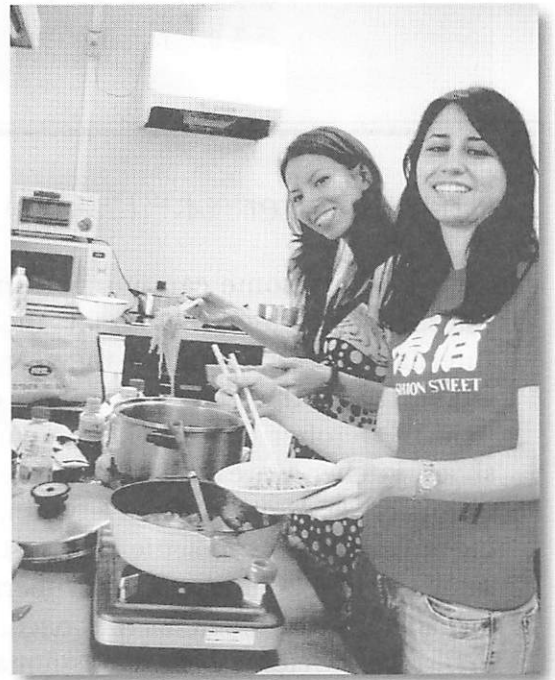
以下、留学生の感想です。

「自分たちで始めて作った肉じゃがはとてもおいしかった。新しい友達と楽しい午後も過ごせて幸せなひとときを過ごすことができました。先生、ありがとうございました。」

「お味噌汁は初めて自分たちで作って食べたけどすごくおいしかった。味噌の味がわかりました。次も是非、参加したいです。」



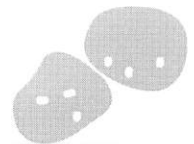
写真は、お行儀のよい男性陣(上)と、お料理を楽しむ女性陣(右)ですが、もちろん一緒に日本料理を作りました!



「もう1回やりましょう。お願いします。」



「料理の見た目も私たちの笑顔もバッチリです! 井上先生、ありがとうございました」と留学生



## バザーへのご協力ありがとうございました

## 10月期バザーを開催しました

去る10月12日(月)～16日(金)の5日間、開催致しました留学生支援のためのバザーには、様々なバザー用品をご寄付いただき、ありがとうございました。各種辞書、書籍、電気釜、レンジ、温風器、トースターなどの電気製品、寝具、衣類、台所用品、タオル、石鹸、洗剤などの日用品、ノート、便箋などなど、すべて留学生が必要とするものばかりでした。今回は、特に寝具類の寄付が多くありました。

Special  
Thanks!

第一日目は、開催前から入り口で開始の時間を待つ留学生もあり、開始と同時に部屋一杯に留学生が集まり、大にぎわいでした。大型電気製品(500円)以外はすべて100円(小さな物はまとめて)、書籍は無料としました。電気製品、寝具類は、ほとんど1日目になりました。バザーに集まった大半の留学生が来日したばかりでしたので、様々な日用品も喜ばれました。一日5点までとしましたので、ほとんど毎日来ては、バザーを楽しみながら必要品を選択し、品物を持って帰っていました。

送っていただいた沢山の品物も、金曜日にはほとんどなくなりました。留学生たちは、「どうしてこんなに安いのか?」「ただで良いんですか」「ラッキー!!」と喜んでいました。支援の会にありがとう!これからもよろしく!と、口々に言って帰って行きました。来年の4月のバザーの折もどうぞよろしくお願いいたします。

## Thanks Letter 本当にありがとう!!

A handsome campus perfumed with kin moku sei (fragrant olive Osmanthus fragrans) welcomed the bazaar, the first manifestation of "The Support Committee for International Students" for the year 2007-2008 at Tokyo University of Foreign Studies. Organized by the women members of this Committee with gentleness and grace, it was held in October (12-16th). One could find clothes among which haouri and hanten, shoes, kitchen ware including marvelous tableware, bed linen, towels, ... I even found an exquisite set of otedama. Everything was at incomparable prices, the aim being to help incoming students to settle and to start their academic year in the best conditions. In the same spirit of kindness, the members of the Support Committee invited students to fill in forms indicating the items they need. Everything was done to accommodate them.

Last October bazaar was not an economic transaction. It was a welcome symbol in the Japanese tradition of hospitality. It signaled the opening of a new season to introduce students to some aspects of the refined Japanese culture. Calligraphy, tea ceremony, and ikebana are proposed by the Committee for International Students throughout the year. This makes the stay in Japan of international students and researchers ever so humanly and culturally enriching.

Aida Kanafani-Zahar アイーダ (フランス)  
Visiting Professor (客員教授)

TUFS - Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa



## Thanks Letter 外語大は天国のよう！

私は今年の4月に研究生として日本に来日しました。桜の木に包まれているような外語大がとてもきれいで、多国籍な学生たちの姿がカラフルな風景を作り上げていた。一生忘れられない光景であった。私から見ればまるで天国のようだった。現在イランでは日本語の先生が大変不足している。テヘラン大学にある日本語学科が潰れそうであるため私は今回の進学を決心した。家族持ちで簡単な結論ではなかったが、きっと苦勞と同時に素晴らしい経験や出会いがあると信じて家族を説得し日本での留学を決心した。

最初の3ヶ月は家族が離れ離れで皆で寂しい思いもした。来日してからも単身寮から家族寮への移りから子供たちの学校の準備、家庭道具の準備様々な心配を抱えていたが、留学生支援の会の皆さんのおかげで本当に本当に助かった。まず、私の問題を自分の問題のように心配してくれて、とても心強かった。私だけではなく私の家族のことまでいろいろと心配して頂、感謝の言葉も見つからない。やはり外国で暮らすことは思うよりも大変なことである。経済的、神経的にも負担がかかるため、目的を達成するまで勉強を続けられるかどうかは、決して助けがなければ成立しない。だからと言って最初から援助を期待することもいけないと思う。

しかし、なぜか世の中はうまくできているように見える。励まされたり、助けられたり、また自分が別の人を励ましたり、助けたりして、人間性と言うものが作り上げていくと思う。わたしの子供たちは全く日本語が話せず日本に来たが、支援の会の日本語広場に参加し、今はある程度日本語が分かるようになり学校生活も楽しくなったと言う。信頼関係をベースに日本語教育が行われることがとても効果的であると言われている。私も含めて大勢の留学生が支援の会の皆さんに大変お世話になっている。

第一に必要なになってくる自転車を貸していただいたり、バザーで様々な用品を安く提供していただき、私なんか子供がとても欲しがっていたランドセルまで用意していただき、大変助かった。経済的なものばかりではなく、日本文化と接する場を用意していただき、私たちの留学生活がとてもハッピーな生活になっている。この場を借りて外語大の事務所の方々と支援の会の皆様に心からお礼を言いたい。私たち留学生の心をいろんな面で暖かくしてくれて有難うございます。私たち外語大の留学生は本当に恵まれていて幸せな留学生である。

アタシ・ゴレスタン・マリヤム(イラン)  
研究生



### 3-5 国会議事堂・江戸東京博物館見学と ちゃんこ鍋を囲む懇親会

11月3日(土)文化の日、晴天に恵まれ、留学生29名、幹事5名が衆議院議員会館前に13時集合、国会の中を見学してきました。

国会は会期中でしたが、土曜日ですから、審議は行われていなく、その上、見学グループは我々だけでしたので、衛視の方の十分な説明を聞きながらゆっくり見学できました。赤い絨毯を踏み、本会議場、天皇、皇族の御休所、伊藤博文、板垣退助、大隈重信の像が立つ中央広場、各党の詰め所などを見ながら廊下を巡りました。

次に、地下鉄を乗り継いで両国に移動し、江戸東京博物館へ行きました。ここでは、自由に各自見学をしました。入り口を入ると日本橋を模した

大きな橋がかかっているのに一同驚いた様子でした。江戸時代からの文化や歴史が文物を通してわかりやすく展示されていました。説明も英語での掲示があり理解されたと思います(中国語、韓国語など五ヶ国語のガイドブックも用意されています)。

2時間ほどの見学の後はお楽しみのお店のちゃんこ鍋に行きました。

かなり歩き廻ったので一同皆お腹がすいていて、お鍋の中が煮えるのも待てないでお箸を出す人もいたりして和気藹々でいただきました。最後に一人ずつ日本語で自己紹介をしました。

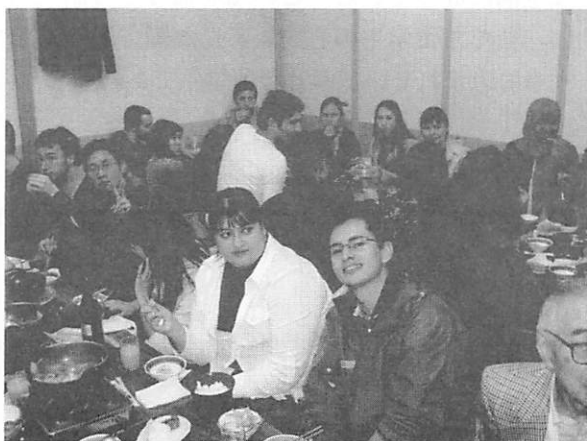
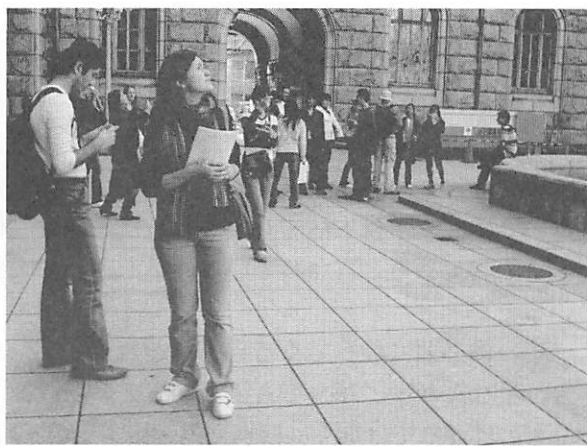
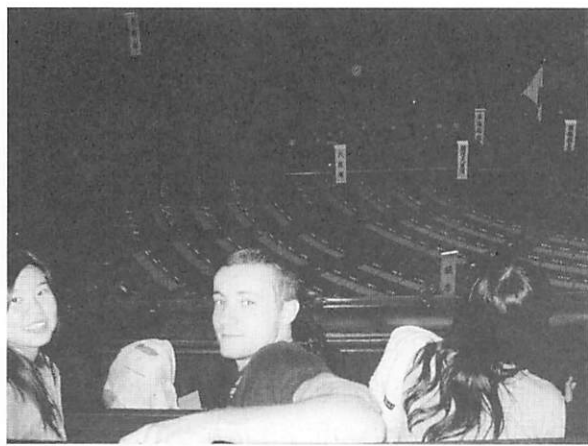
日本の中枢部を見学、昔の生活・風俗を学び、伝統的なお鍋料理でお腹を満たし、留学生に

としては日本を知る有意義な一日になったと思います。

以下、参加した留学生の感想です。



まぶしいのは留学生の笑顔でした！！



(上) 国会議事堂見学の様子 大臣席? 座席はねじれていないんですね! (笑)

(下) ちゃんこ鍋を囲む懇親会 日本文化を知るにはやっぱり鍋ですかね! ?



## 国会議事堂の高い天井と奈良？

ましゅんろう  
麻 春 緑 (中国)  
学部 3 年生

今回の国会議事堂見学は大変貴重な経験だったと思います。普段テレビでよく目にしていたが、実際の中に入ってみると違う感じがしました。特に印象に残ったのは真ん中のそびえ立つ高い天井です。奈良の五重塔がすっぽり入れる空間だそうで、実際そこに立って見上げてみると、すごく迫力を感じました！

その後の江戸東京博物館見学も面白かったです。一番感心したのは、江戸時代の様子を再現するいろいろな模型です。建物はもちろんですが、ひとつひとつの人形の迫真的な作り方が目を引きます！その場でじっと立って見ていると、その小さな人ごみの中に入り込むような気がします。

我々学部の留学生は普段あまり留学生センターの留学生と交流する機会が少ないので、このような活動は大変ありがたいです。このような機会を作ってくれた留学生支援の会の方々に、感謝の気持ちを表したいと思います！これからもなるべく参加するようにしたいと思います。

### 3-6 バスツアー

東外大キャンパスのある府中には、FEC という市民の英語クラブがあります。このクラブは留学生支援の会との後援のもと、毎年、留学生を招待してバスツアーを楽しんでいます。今年も、11月15日に15人の留学生が参加して、富士山と忍野八海を訪ねました。

当日は、お天気に恵まれ、英語クラブの会員と留学生がペアを組んで楽しいおしゃべりをしながら、ツアーを楽しみました。すでに雪をいただいた富士山を間近に見たときは留学生たちは歓声をあげました。富士5合目では、寒さに震えながら、富士の裾野や富士五湖の雄大な風景を楽しんだ後、「ほうとう」に舌鼓をうちました。食後は忍野八海に行き、富士山からの豊富で清冽な湧水に驚いていました。富士とその周辺の自然に留学生たちは満足したようです。(百瀬照美/FEC 会長)

## 新規にご入会いただき ありがとうございます

次の方々が新規にご入会下さいました。  
今後の活動への参加や、支援の会へ忌憚のないご意見をよろしくお願い申し上げます。

**平成19年度新規入会者** (平成19年7月1日～平成19年11月30日) \*敬称略、50音順  
加藤榮子、高木学、樽村恭弘、山本牧子

万一、お名前に間違いがありましたらお詫び致します。尚、当会までお知らせ下さいませ幸いです。

## ご寄付の御礼

次の方々からご寄付をいただきました。ご協力いただきまして、ありがとうございます。略儀ながら、本会報にて深くお礼申し上げます。

**会員寄付者** (平成19年4月1日～平成19年11月30日) \*敬称略、50音順

川口健一、下村和彌、新堂睦子、鈴木文子、鈴木正道、田原明、寺田朗子、中島正隆、中村真理子、成瀬よし子、疋田妙子、本望春夫、望月征美、湯本昭南、横石邦彦、ルチラ・パリハワダナ  
(以上、一般寄付、緊急貸付基金寄付を含む)

万一、お名前に間違いがありましたらお詫び致します。尚、当会までお知らせ下さいませ幸いです。

**ご協力いただき、ありがとうございます**



ご意見、感想など、**会報**への  
**投稿募集** どんどん  
お寄せ下さい

当会へのご意見、ホームページやイベントに関する感想文など、会報への投稿をお待ちしております。お気軽にお問い合わせ下さい。

### 3-7 留学生が「国際理解教育」授業に参加



(上) ブラジルのレヴィ・アンジェロ・ヴァスコンセロスさん



(下) エジプトのイブラヒーム・アフーフ・エマドさん

11月27日、府中市第7中学校の1年生の総合学習「国際理解—世界の中の自分」という授業に五カ国の留学生が講師として参加しました。中国、ロシア、エジプト、ブラジル、イタリアからの留学生が1年生の各教室でそれぞれの国の言葉、歴史、文化などの紹介40分、その後質疑応答30分の1時間を超える授業を行いました。

多岐にわたる自国の紹介の後、中学生からの沢山の興味深い質問に留学生が応えて、互いに交流を深める充実した、中身の濃い授業となりました。

中学生たちは、若い留学生から直接生きた言葉で異文化を学び、同時に自分の国である日本文化への理解を深めることができた喜んでいました。

一方、留学生は自国について教えることで、自分の文化を再確認するのに役立ったし、日本の子どもに自国を知ってもらえてうれしい、また機会があればやりたいと目を輝かせていました。

## EXPERIENCE



### 4. ホームビジット&ステイ

#### 4-1 ホームステイ受入れ体験

##### 大切な娘たち、7人の留学生

会員 橋本 由紀子

娘の東外大入学を機に、これも何かの縁と留学生支援の会に入会して、3年目になります。以前アメリカでもらった温かい心が嬉しくて、今度は自分も何かできないかとの思いで受け入れ始めたホームステイ。“お母さん”と呼んでくれる娘が7人も増え、逆に多くの幸せをもらいました。

「近くにいっても、ピラミッドを見たことがなくて

恥ずかしい。」と言っていたエジプトの学生。上高地の空気を一杯吸い込み、「今日は日本に来て最高の日!」と喜んでいました。私も涙ぐんでしまうほど心のこもったお礼のメールをくれた中国の子からは、「お母さん、大学院に合格しました。また日本に行きます!」という嬉しい便りが先日届きました。また、一緒に台所に立ち、母親を思い出していたイタリアの子、美味しい母国料理をご馳走してくれたフィリピン・ベラルーシの学生たち。その他、モンゴル、シリア・・・報道からは見えてこないそれぞれの国の実情を話してくれたりもして、一人ひとりが本当に素敵な思い出を残して行ってくれました。また、意外だったのは、ほとんどの学生が、お寿司・お刺身が大好きだったこと、これにはちょっと驚きました。

滞在期間が短いのがちょっと残念ですが、小さな触れ合いから理解が深まり、その輪を自国へ帰って広げて行って欲しいと願っております。

いつも支援の会の中心となり、交流の機会を提供して下さるかたがた、遠く信州まで訪ねて来てくれる留学生たち、私以上に留学生を心待ちにして協力してくれる家族・・・皆に感謝です。

## 4-2 テンプルステイ受入れ体験

### 留学生を受入れて

会員 松下宗柏

今年になってテンプル・ステイで、お寺に各国から東京外国語大学へ留学中の留学生が次々と訪れた。私にとっては、居ながらにして各国の国情、人情、文化、留学生の人格や才能に接する機会であり、駿河や伊豆の国の豊かな自然や歴史、まちづくりを再認識する機会になっている。

春の彼岸の頃、トルコの女子学生・ムスルメさん、ドイツの男子学生・ヤンさんがやって来た。何かと用事が重なったので、ムスルメさんはホームステイの経験豊かな大中寺(西沢田)のご住職(下山光悦師)にお願いした。

トルコは回教国だが、今までやって来たエジプトやトルコの学生と違って、ムスルメさんはヘジャブ(スカーフ)をつけていなかった。回教徒にも伝統派と近代派があって、選択は個人の自由。「自分の前世は日本人ではないかと直感して日本に親しみを持つようになった」と話してくれた。

ヤンさんの故郷は、「笛吹き男」で有名なハメルーンの近くにあるドイツの農耕地帯。彼自身も豎笛が得意で、日本に来てからは尺八の練習をしている。五月末の「こんぴら祭り」に再訪し、白隠太鼓の横笛奏者から手ほどきを受け、ビールを振る舞われ、ご機嫌だった。

二人を愛鷹山麓の茶畑や清水町の一里塚などに案内した後、三嶋大社前にあるFM局のボイスキューにゲスト出演してもらった。

四月の初めには、イランのテヘラン大学の研究者・アリ夫妻と友人の三人が訪れた。研究課題は「日本の近代政治」。日本は明治時代にどのようにして封建制度から脱し、近代国家として再生したかということがテーマ・祖国の近代化に寄与したいという。

こちらは回教徒の伝統派。食事の材料を持参して自炊。三嶋大社の満開の桜や、てんぷら丼を喜

んでもらった。狛犬のルーツはペルシャに違いない」と言っていたのが印象的だった。

五月になると、シリアのミラさんが一人で現れた。ムスルメさんの親友で、明るくおしゃれな女性だった。自分の家族のルーツは黒船沿岸のコーカサスで、おじいさんの時代にシリアに移民して来たという。民族文化を大切にし、家庭では母国語、教育はアラブ語と英語で受けてきたという。

知人の娘さん(静岡大生)と初対面にもかかわらず夜遅くまでおしゃべりに花を咲かせる二人の姿に、「次の世代には国境はない」とボーダーレス時代を実感させられた。

ミラさんは柿田川の湧水に感激し、「こんな水と緑の豊かなところに住みたい」と泉を見つめていた。

そして、この六月中旬、ロシアのエレーナさん、ターニャさん、ベラルーシのタチアーナさんの三人がやって来た。金曜日の授業を終えてから新宿でバスに乗り、お寺に着いたのは夜十時頃だった。「週末を有効に使いたいから」と。

日本のお寺には仏教と神道と儒教が共存していると説明すると、「それを日本文化のシンクレティズム(重層構造)というではありませんか」という応答。とても聡明な三人であった。梅雨の季節にもかかわらず、浮島が原の稲田の向こうに姿を見せた富士山に、いっせいにカメラを向けていた。

座禅(長興寺)、ホタル鑑賞(富士市今泉・法雲寺)、七夕祭り(御用邸記念公園)と、三嶋大社では既にしつらえられてあった夏越(なごし)の芽の輪をくぐり、日本の伝統行事を楽しそうに体験していた。

そして日曜日の夕刻には、「あすの日本総合学習の授業で『日本国憲法の改正』をテーマにした討論があるので、帰ってから条文の下調べをしなければならぬ」と言ってバスに乗り、東京へ向かった。

どうやら東京外大の留学生の間で、「沼津はいい所だ、おもしろい」と話題になっているようである。大陸育ちの人々にしてみれば、直行バスで二時間半の距離は遠くない。数時間の移動は当たり前だという。沼津は東京から遠くない、東京の近郊だ。沼津から富士登山や富士五湖めぐり、戸田の海水浴にも行きたいと。

かつて沼津が皇族の保養地や政財界人の別荘地として選定された理由を改めて認識し、これから未来への可能性を予感する。

「都市機能の高度化」「静岡東部の中心都市」という視点から、むやみやたらと都市化かするので

はなく、首都圏からの視点で近隣市町と連携し、日本一の自然や景観を生かした「国際的健康文化ゾーン」を形成していくという大らかな構想も大切ではなかろうか。

(長興寺住職)

『沼津朝日新聞』(6月22日付け)より転載

### 4-3 テンプルステイ体験の感想

久しぶりに海と森の空気を吸ったりして、、、

ズイコヴァ・エレナ (ロシア)  
研究生

今度の沼津のホームステイは私にとって本当に忘れられない旅になりました。珍しいことですが、テンプルステイでした。週末の2日間の短い時間しかなかったけれども、松下さんの思いやりの案内のお陰で様々な見所や文化、歴史的な所をたくさん訪ねて、楽しくて鮮明な思い出を作ることができました。

梅雨の季節中で富士山の姿を見る機会にめぐまれたのはとてもうれしいことと思います。親切な松下さんからうかがった沼津地方についての話しも面白くてためになって、私は沼津の味を感じるようになりました。

また、初めてお寺の座禅に参加したり、ほたるの観賞で美しく宇宙人みたいなほたるも初めて見たり、温泉に入ったり、久しぶりに海と森の空気を吸ったりして、生き返ったような気がしました。

このテンプルステイは価値がある経験になって、いろいろお世話になりました松下さんに心から感謝します。宮田さんもいつも留学生が大変お世話になりまして、本当にありがとうございました。

### 自分の顔を出してくれた富士山と 宇宙人みたいなホテル

クシナリョーフ・タチヤーナ (ロシア)  
研究生

私達は、6月15日から17日にかけてホームステイに行くようになったことが分かって、その期間はちょうど梅雨の時期に当たって、傘を抱いて旅行するしかないと心配していた。しかし、梅の

- 雨が降るはず日々に、私達のためみたいに、太陽
- が出て、天気が晴れていた。
- 私達は帰りの東京行きのバスに乗った後、雨の
- 滴が落ち始めた。親切な和尚様のおかげで、ホー
- ムステイの2日間私達は明るい感情と忘れがたい
- 印象にあふれていた。自分の顔を出してくれた富
- 士山、宇宙人みたいなホテル、法雲寺、岩の中
- にある温泉、天皇の御用邸、きれいな海の見える展
- 望台、朝の座禅などのすばらしい印象で私の心は
- 一杯になって、力をあらたにして勉強をし続けた。



### HOME VISIT & STAY

ホームビジット、ホームステイ受け入れに関心のある方は是非、当会にお問い合わせ下さい。

## VOICE I



### 5. 留学生の声

#### 宗旦居士 350 年記念茶会に参加して

ズイコヴァ・エレナ (ロシア)  
研究生

秋も深い11月19日・20日には京都の古くて有名な大徳寺に千家3代・宗旦居士遠忌の法要ならびに記念茶会が行われた。国内外より1600人のお茶の名人が集まったが、学校で茶道を学ぶ大学生の代表は初めてこのような行事に参加できた。幸運にも私もこの機会に恵まれた。

19日には1日で午前9時から午後6時までいろいろなことを見て、体験によってもたくさんのことを知るようになった。朝、学生たちは集合して、聚光院にて参拝して、5グループに分けられて、お茶席廻りを始めた。大徳寺山内には記念の茶席が5席設けられました。5つのお寺の院(総見院、高桐院、芳春院、三玄院、黄梅院)に入って、5つの席(今日庵席、直門席、大松美術館席、業躰席)を回って、皆から尊敬されている有名なお手前で立てたお茶を飲ませていただいた。全部の席にはお茶(濃茶・薄茶)、お菓子、道具、床の間の掛け軸とお花などが違って、雰囲気も違っていたから、それぞれのところは、特別でユニークな気持を呼び起こした。

最後には裏千家今日庵と茶道資料館も訪ねた。

秋色深まり行く山内の風情とともに、侘びに徹された宗旦居士の威徳を偲ぶ趣向を味わいながらゆっくりと各席を巡っていた。この1日を楽しく過ごして、いくつもの忘れられない思い出を作ることができて、大変勉強になった。個人的に千玄室先生と話し合ったことが忘れられず、大切にしたい。

私にとって、お茶会に参加するのは本当に大事なことになった。元々の日本茶道の文化と伝統に触れて、日本人の心もよりよくわかるようになった。ロシアに帰った後、日本語だけではなくて日本の文化も教えたいんだけど、日本の文化や伝統をこの目で見る事が出来たのは、何者にも替えがたい、価値ある経験だった。そして、これからも一生懸命頑張って茶道の勉強を続けたいと思う。

## VOICE II

### 6. 会員の声



#### 私の国際交流

会員 館 浩道

ボクは東外大キャンパスがある府中で支援の会メンバーとして活動している。

自転車が趣味のボクは市民らの協力で中古の自転車を集めては留学生に貸し出すことも始めたのだが、自転車は結構、彼らに人気がある。

個人的な楽しみは、リタイア後に始めた自転車で海外に出かけることである。

現代社会は、旅行といえば、クルマや飛行機で目的地に行き、観光などを楽しむスタイルは洋の東西を問わず当たり前のことだが、アフリカの人々のなかには生涯に一度、徒歩による聖地巡礼が、その家族の最も大切なイベントであるという。

1,000キロ以上を歩き通すことによって聖地に到着したときは足は腫れあがり、体もボロボロだが、その感動的な達成感と宗教的悦楽と重なるのだろう。

芭蕉や山頭火の漂泊も同じように、厳しい旅の空に身をおいていたと思う。

ボクの場合は、風と友達になれる自転車という楽しい移動手段で旅をしているので、徒歩旅行の苦しさや、達成したときの喜びなどは理解できな

いのかもしれない。それでも「自転車の旅はたいへんでしょう」と声をかけられるが、まったくそんなことはない。

クルマと違って、どこでも気軽に止まることのできる自転車は外国の人々との交流も実に気軽だ。道を尋ねようと思い、通りすがりの女性に声をかけたら「さっきからあなたのことを見てたのよ」と云われたうえに根掘り葉掘り聞かれたりといったことは毎日のようにある。

自転車は、日常生活の延長線のようなところがあり、お互いが同じ目線で向き合うことができるので、ことさら親しくなれる。ドイツをサイクリング中のオランダ人夫婦とふとしたことで知り合いになり、数日後に宿泊予定だったユトレヒトの夫婦宅を訪問したり、数年後に引っ越し先のオランダ東部のお宅を再び訪ねて泊めていただいたこともある。

特に日本人が行かない観光スポットからはずれた田舎のPubでは、なんとかきつけを作って初めて出会った日本人と交流しようと、彼らの席に招かれたりなど、さまざまだ。そんなとき、彼らは「日本人は風のように来て風のように去るが、お前は変わった男」などと話してくれる。

今年になって始めたのは、あらかじめ国際交流組織の会員になっておき、会員同士の交流をはかる目的で、相互訪問しあうことだ。この方法でイギリスを旅して10軒のお宅を訪問し、彼らの家



写真は『朝日新聞』(2007/10/11 多摩版)の記事より転載したもので、ボクと並んでいるのはイタリア青年

庭生活に触れることができた。一宿一飯のお返しに食後の皿洗いをしたり、子どもたちに日本語を教えてあげるなど、文字通りの「草の根国際交流」が楽しかった。

帰国後は、東京をスタートして下関、韓国、中国とアジアをインドまで旅するイタリア青年のサイクリストをわが家に迎え、都内や鎌倉などを一緒にサイクリングもした。彼はようやく中国に着いたところだ(11月14日現在)。その組織は「SERVAS International」といい、日本支部もある。

●国際交流組織の日本支部のサイト

「SERVAS JAPAN」⇒ <http://www.servas-japan.org/>

●ヨーロッパを中心にボクの海外ツーリングを掲載している個人サイト「リタイアは自転車に乗って」⇒ <http://cycle.tc/>

●日本旅行記を掲載しているイタリア青年のブログ(英語)⇒ <http://sergiomanzitto.wordpress.com/>

## ACTIVITIES



### 7. これからの活動

#### 1 2008年1月27日(日) 大相撲1月場所見学

さて、年明けの第一弾イベントは、大相撲見学です。毎年、留学生がとても楽しみにしているものです。

#### 2 2008年3月20日(木・祝日) 春の鎌倉

毎年恒例のこの企画。鎌倉在住の会員のご協力を得て、大変好評です。

会員の皆様も是非ご参加下さい。

日時 2008年3月20日(木・春分の日祝日)  
コース 新宿小田急一藤沢乗り換え鎌倉一  
切り通し一円覚寺一八幡宮一昼食一  
鎌倉一江ノ電で長谷寺一大仏一鎌倉  
(コースは変更する場合があります)

参加ご希望の方は、当会または下記までご連絡ください。042-330-5761(梅田まで)

## 8. 幹事会

下記の通り、幹事会を開催いたしました。

平成19年度第4回幹事会	7月29日(日)
平成19年度第5回幹事会	10月14日(日)
平成19年度第6回幹事会	12月2日(日)



## 平成19年度 会費納入にご協力を!

会員の皆様には、これまで支援活動へのご協力、ご支援をいただき、ありがとうございます。

平成19年度も引き続き会員としてご支援いただきたく、本年度会費未納の方々は同封の振込用紙にてお振込下さいます様、お願い申し上げます。振込用紙にメールアドレスをお書き添えいただければ、今後、当会の各種イベントなどの情報をお届けしていきます。

**一般会員：年会費 3,000円**

**協賛会員：年会費 20,000円**

11月30日現在、3割強の方々に会費納入いただきました。御礼申し上げます。

**約7割の会員の皆様、納入をお忘れなのではないでしょうか!?**

□ □ □ 編集後記 □ □ □

通常11月に発行しております本会報ですが、今回事情により発行が遅れました事、お詫び申し上げます。

<お問い合わせ先>

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1  
東京外国語大学 留学生課 気付(谷川、梅田)

TEL: 042-330-5759 FAX: 042-330-5762

E-mail: [tufs-issa@nifty.com](mailto:tufs-issa@nifty.com)

<http://homepage3.nifty.com/is-tufs/>

# 東京外国語大学 留学生支援の会

No. 27  
年3回発行

Since 1999

## 会報

**SMILE COMES BACK!!** 締切間近、19年度会費納入のお願い

留学生の喜びの声、届いていますか？（詳細は、8ページの国際交流事業報告）  
皆様のご支援とご協力が留学生を支えています。会費納入にご協力を！（19ページ参照）

Pick Up  
Message  
2008

**今年も4月21日（月）より5日間バザー開催決定！**

会員の皆様、留学生支援のためのバザー開催へ向け、ご協力をお願い申し上げます。  
物品受付は4/10（木）～4/18（金）です。（詳細は、最終13ページをご覧ください。）

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1 東京外国語大学留学生課気付 TEL 042-330-5759 FAX 042-330-5762

E-mail [tufs-issa@nifty.com](mailto:tufs-issa@nifty.com)

<http://homepage3.nifty.com/is-tufs/>

## INSIDE

- Page 1 1. 巻頭言  
留学生の輝き
- Page 2 2. ご挨拶  
留学生の二世は未来の宝
- Page 3 3. 活動報告  
3-1 就職座談会参加  
3-2 各国文化紹介・お茶とお菓子を通じて  
(イエメン、コロンビア、  
ボスニア・ヘルツェゴビナ)  
3-3 国際理解教育  
3-4 国際交流事業報告  
3-5 節分の集い  
3-6 大相撲初場所観戦記  
3-7 4月期バザーについて
- Page 13 4. ホームビジット&ステイ  
4-1 ホームステイ受入れ体験  
—ゼイナブさんとの時間  
4-2 ホームステイ体験記
- Page 15 5. 留学生の声  
金色の春 —三年間の収穫—  
日本の精神、生け花  
My experience in Japan
- Page 18 6. 会員の声  
私の書道教室、雑感
- Page 19 7. これからの活動  
8. 幹事会

## FOCUS



### 1. 巻頭言

#### 留学生の輝き

当会顧問（ベトナム語科教授）川口 健一

私たちの大学には現在、世界60カ国あまりの国々からの留学生が日本語、日本文化などを学んでおり、その数は全学で560名を超える。一方、外語大からは毎年、交流協定締結先の海外諸大学への留学生90名ほどを含め、その他語学研修などの学生を合わせると200名を超す学生がアジア、欧米など30カ国あまりの国々に出かけている。

本学は学部だけを眺めても、日本語を含め、世界の26言語を教育・研究する大学としてユニークな特色を有しており、そのことは学生国際交流の活発な現状に反映されている。

私が本学の学生であった頃は、学生国際交流にしても、現在とは状況がだいぶ異なっていた。海外の大学との大学間交流協定は存在せず、従って、留学生の受け入れも派遣も制度的にはなされていなかった。私自身、学生時代に留学する機会はなかった。

留学の機会には恵まれなかったが、私はこれまで学生時代を含め、いくつかの国々に旅行、あるいは研修に出かけてきた。最初に出かけた国は、アメリカ合衆国で、学生の時夏休みを使ってアメ

リカ西部のひとり旅をした。1ヶ月ほどの短い旅ではあったが、帰国後私は母親から、私の無事な姿を見るまで夜もおちおち眠れなかったと、何度か聞かされた。

私は本学の教員になって14年後に在外研究の機会に恵まれた。それは10ヶ月の期間で、行き先として私はベトナムのハノイとフランスのパリを選んだ。

ハノイではベトナム語専攻の私の学生たちと、彼らが日本を離れて以来、数ヶ月ぶりに会った。たよりがほとんどなかったため、私は学生たちのハノイでの生活にいろいろと心配もしていた。ハノイは気候的にも、住宅・交通の面でも、日本での生活しか知らない若い学生たちには決して住みやすいところではないことも理由のひとつであった。ところが、数ヶ月ぶりに会った学生たちの生き生きした表情に私は驚いたのであった。不慣れた環境のなかで留学生活を送る緊張感がそうさせたのであろうか、顔つきがきりっと引き締まり、目には輝きすら感じ取れた。学生たちはハノイでの留学生活を時に興奮気味に私に語ってくれた。私は異国の地での勉学を通して人生を学ぶ彼らの姿に胸を打たれたのであった。

私はハノイで交通事故に遭ってしまった。思いもよらない出来事のため、私の在外研究は中断したが、日本での手術、二ヶ月のリハビリを経て、次の目的地パリに向かった。ここでも私は日本人初め、さまざまな国からの留学生に出会う機会を得た。ハノイの私の学生たちと同じように、パリで学ぶ留学生たちも向学心に燃えて、実に生き生きとした留学生活を送っていた。私は緊張感を内に秘めた留学生の顔つきに感動すら覚えた。

かつて本学の留学生委員会の委員や委員長を務めていたこともあり、本学の留学生とはこれまでさまざまな交流の機会を得てきた。それは、秋の修学旅行や歌舞伎などの芸能鑑賞を通してであり、形は違っても、その交流は今日も続いている。物価高の日本での留学生活にはさまざまな困難が伴うことと思われるが、本学の留学生もみな向学心に燃え、緊張感を内に秘めた表情をしている。留学生たちとの日々の何気ないつきあいから私はそのことをいつも感じとるのである。

留学生の充実した生活のために、物心両面にわたる心温まるサポートをこつこつと続けておられる「留学生支援の会」に心から感謝の言葉を申し述べたい。

## 2. ご挨拶

### 留学生の二世は未来の宝

会長 中嶋 洋子

会員の皆様はどんな新年をお迎えでしたでしょうか？本年も「留学生支援の会」にどうぞご協力をお願いいたします。

さて、今回は留学生二世、つまり留学生の子どもたちのことについて少しお知らせしてみたいと思います。

人生設計が豊かになってきたのでしょうか、留学生の中にも結婚し、子どもを育て、同時に自分自身の研究にうちこむ、といった人たちが少しずつ増えています。

まず、今年のがが家の恒例新年会の様子をお伝えしましょう。この新年会は、もともと夫(中嶋嶺雄・外語大元学長)のゼミ学生(または卒業生)の新年の集いとして1976年(昭和51年)以来現在まで続いているものです。平成11年から私が留学生支援の会の会長を務めさせていただいて以降、現役の留学生(卒業生)も多数加わって内実も大きく膨らみました。

恒例の1月2日、家族を除いて90名を超える人達がわが家に集まりました。

その中に10名の子どもたちがいて、5名が留学生の子どもでした。1歳から9歳までで、久しぶりに引っ張り出してきた孫の玩具を使って、日本人の子どもも一緒に遊戯大会、ゲーム大会とあいなりました。

そのうちに誰かの提案で百人一首をやることになりました。子どもたちは、歌の意味はわからないものの、上の句、下の句の扱いも次第にわかり、夢中になりだしました。「来年までに絶対暗記してくる」などという子どもでできました。

そこで使われている会話の言語はすべて日本語でした。留学生の子どもたち何人かの日本語は実に堂にあって、ある点では留学生の両親以上に発音は見事、言い回しも完璧でした。後で聞いたところでは、留学生自身が子どもの日本語から学ぶことも多いとのこと。

こんな様子に触れ、留学生生活を家族ともども充実させている留学生に心から声援を送りたいと思いました。

しかし一方、上記のように順調にしているケースばかりとは限りません。

中国からの留学生(卒業生)は結婚して、現在4ヶ



月の子どもがいるのですが、共働きなので中国の父母のところへ預けているとのこと、子どものことを思うと胸がはりさけそうで、1日も早く自分たちの所に呼び寄せたいと、現在思案中とか。

また、ウズベキスタンからの留学生の場合。

現在4歳の子どもの保育園(幼稚園)に行かせる費用の捻出も困難で、子どもは、日中はほとんど奥さん(お母さん)のグリスさんだけの生活を続けている、日本語はもちろんできず、人との交流も極端に少なく、このままでよいのか悩むといったケースもあります。幸い見たところご夫婦の仲がよく、ともに穏やかな人柄で、その点では私の気持ちも救われます。最近では、奥さんが当会の「日本語広場」に子どもを連れて参加しています。子連れでは大学内外の行事にも参加しにくく、留学生自身ではないのですべてのことに消極的だったとのこと。講師の先生(幹事)の理解もあり、順調に週に一度の勉強に喜んで参加しています。また昨年末の国際交流の夕べでは、予約なしの飛び込みでしたが、着物の着付けを大いに楽しんでくれました。

前号の会報ではイランからの留学生マリヤムさんの子どもたちのことに触れましたし、23号では、ベトナムからの留学生の赤ちゃん誕生についてご報告しました。この赤ちゃんが、ベトナム語で「日本」という意味のある「ニャット」君と名づけられたというニュースを覚えていらっしゃいますか? 現在1歳半ですので、そろそろ言葉の問題、日本人との交流の問題などいろいろ苦労が始まることでしょう。

毎日の生活の中で、達成感や自己実現の場を持ちにくい留学生の配偶者や子どもたちへの支援は、当会の大きな目標の一つでもあります。

なにしろ留学生の子どもたちは未来の宝ですから、彼らにも温かい目を向けて活動を続けていきたいと思っています。

## REPORT



### 3. 活動報告

#### 3-1 就職座談会に留学生参加!!

昨年の外語祭期間中の11月23日に、J・Broadという会社の企画による座談会が開かれました。「働くこと」や「キャリア」についてどう考えてい

るかを、各国の留学生で討論してもらいたいとの依頼があり、呼びかけた結果、9カ国の留学生と1名の日本人学生が応じて集まり、交流会館ロビーで討論しました。一人ずつテーマに沿って意見を述べました。留学生にとって、新しい経験でしたが、働く事について他の人の意見が聞けて良かったし、楽しかったと言っていました。

#### 3-2 各国文化紹介

##### お茶とお菓子を通じて

(イエメン、コロンビア、ボスニア・ヘルツェゴビナ)



留学生による自国の伝統文化紹介の催しも回を重ねて第6回となりました。

去る12月4日国際交流会館2号館1階交流ホールで12時から14時まで開催しました。今回はイエメンのワヒーブさんがミルクティー、バクラバ、ハラワを、コロンビアのアンドレスさんがチョコレート・サンタフェレニョを、ボスニア・ヘルツェゴビナのマヤさんがスピニッチパイ、チキンポトサラダを紹介してくれました。

今回も「各国の伝統的なお茶とお菓子(軽食)を味わいましょう」というテーマで、食を通じて和やかに交流を深めることが出来ました。普段、口にする食材が、組み合わせや調理の仕方で違った味わいになることに改めて気づき、どれもとてもおいしくいただきました。

また、留学生たちは母国を紹介する写真や音楽、チラシなどを用意してくれたので、わかりやすく素晴らしいプレゼンテーションとなりました。今回は開催場所が従来と変わり、会場の広さは申し分なかったのですが、参加者が50名余りと少なく残念でした。しかし、そのことで「ゆっくり話す事が出来、充実した楽しいひと時でした」との感想が寄せられました。

また、主催者としては、紹介してくれる留学生たちのいつにもまして生き生きとした笑顔に出会えることも楽しみの一つとなっています。

以下、紹介してくれた留学生の感想です。(当会ホームページにも今回の写真を掲載しています。是非ご覧下さい。また、どなたでも参加できますので、当会にお問い合わせ下さい。)

## Being a part of our TUFs community.

マヤ (ボスニア・ヘルツェゴビナ)  
大学院生

I am happy if you and other guests enjoyed. It was a pleasure to prepare the food and to have many familiar guests - my classmates from pcs and staff, too - Ishidasan...I enjoyed Waheeb's cakes & milk tea and Andres's hot chocolate with cheese ! Learned a lot - that Middle East cakes remind on Bosnian cakes (definitely coming from Ottoman Turkey period) and that Colombia is much more exotic country than I could have imagined!

I had a good feeling after the event and enjoyed being a part of our TUFs community. Enjoyed wonderful maccha made by sado-sensei, too. It was a pleasure to be part of the event. Thank you, too, for giving many opportunity.

## Enjoyed the day very much.

ワヒーブ (イエメン)  
研究生

Many thanks. I have enjoyed the day very much. The number of people was not as much as I expected so it was good. I was worried the tea and sweets will not be enough.

Thank you very much for the lunch and making everything ready for us. I personally and I am sure the others have enjoyed it. Best regards.

## “CHOCOLATE SANTA FERENO” チョコレート サンタフェレノ

アンドレス・マシアス (コロンビア)  
研究生

At the end of last year, I had the opportunity to share with other students a traditional afternoon meal from my home country, Colombia. It was sort of a challenge, because I was supposed to organize a similar custom as the Japanese “Tea Ceremony”, but in Colombia we have no such type of rituals.

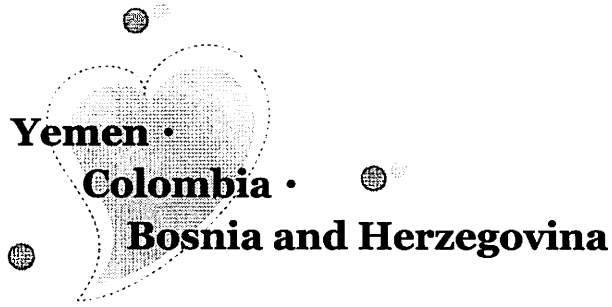
At first, I thought I should prepare



上段左:スピーチするマヤさん。上段右と中段左:ボスニア・ヘルツェゴビナのスピニッチパイとチキンポテトサラダ。  
中段右:マヤさんと仲間たち。  
下段左:イエメンの紅茶をすすめるワヒーブさん。  
下段右:コロンビアのアンドレスさんと友達。

Colombian coffee and share a “coffee time” with everybody. Colombian coffee is very well known all around the world, and among the mild and soft roasted coffees, it is one of the best. As you can see, we are very proud of our coffee. Traditionally, we use to drink coffee in two different ways: either just plain black coffee or coffee with a little bit of milk. All the other presentations of coffee drinks such as Cappuccino, Cafe Mocha, etc., have been imported to Colombian coffee shops from abroad. But anyway you might drink it, there is no ritual for it. You might just meet a friend, go to the closest cafeteria, and share a cup of coffee; or drink a hot coffee in the morning to help you wake up; or have a coffee in the waiting room of a company before a meeting.

Therefore, I decided to prepare a different type of beverage called “Chocolate Santafereno”. It is hot chocolate which we use to drink in the capital city of Colombia, Bogota, where temperature in the afternoon might get a little bit chilly, around 10°C. It is very common that the whole family will gath-



**Yemen ·  
Colombia ·  
Bosnia and Herzegovina**

er around in one house, most of the times at the grandparents' house, to share this hot chocolate. For those of you who didn't have the chance to try it, "Chocolate Santafereno" is a mixture of chocolate, milk, water, and cinnamon. But besides this, the interesting and perhaps unique element of it is how you are supposed to drink it. You should have your cup of hot chocolate, and besides it a slice of cheese, hopefully mozzarella cheese, some slices of bread, and if possible some salty crackers. You should cut the cheese in small squares and put the pieces of cheese inside the hot cup of chocolate. The idea is that the cheese melts a little. After that, you may soak small pieces of bread or crackers in the chocolate before putting them in your mouth. Finally, before finishing the hot chocolate, you should eat the melted cheese with a spoon.

The mixture of hot chocolate and cheese became the most interesting thing for the people who tried it. When I explained the way in which they should eat the cheese, everybody frowned their faces. "What? Cheese inside the Chocolate? That is so weird!" These were the most frequent reactions.

I enjoy very much hosting people, and even more when I have the possibility of introducing my country to them. Colombia is very far from Japan, and unfortunately foreign people get to know only the negative things that happen there. For this reason, I liked very much to have the opportunity of showing the other face, the nice face of Colombia: to show its beautiful scenarios, to share its tropical music, and to explain some of its traditions.

Thank you very much for letting me show you a small glimpse of my country!

(前文要約) チョコレート サンタフェレノ

昨年末に自国(コロンビア)の伝統的なお茶とお菓子の紹介をするように依頼された時は、とてもうれしく、すぐにやりますと言いましたが、考えてみると、コロンビアには日本の伝統的な「茶の湯」のようなものではありません。

コロンビアコーヒーはとても有名ですが、日本と同じような楽しみ方しかしません。

そこで、「チョコレートサンタフェレノ」と呼ばれる違ったタイプの飲み物を用意しようと決めました。これはコロンビアの首都ボゴタでよく飲まれるホットチョコレートです。普通は祖父母の家に家族一同が集まってこのホットチョコレートを一緒に楽しく味わいます。

チョコレートサンタフェレノは、チョコとミルク、お湯とシナモンを混ぜ合わせた物ですが、飲むときに、ちょっと変わったおもしろい点は、ホットチョコレートと、モッツアレラチーズとスライスしたパンと(あれば塩味のクラッカーも)一緒に味わいます。小さなチーズの一片をホットチョコレートの中に入れます。チーズが少し溶けてからパンやクラッカーを浸して口に入れます。チョコレートを飲み終わったら、チーズをスプーンですくって食べます。

参加したほとんどの人にとって、ホットチョコレートとチーズを混ぜるのは初めてのおもしろい体験だったようです。最初に食べ方を教えた時は、みな顔をしかめて「チョコレートの中にチーズをいれるの?気持ち悪い」と言いましたが、味わった後はおいしいと言ってくれました。

コロンビアは日本から遠く離れた国で、ほとんどの人は、そこで起こっているネガティブな事しか知りません。だからコロンビアの良いところや美しい面を知って欲しくて、コロンビアの音楽を流して、いろんな写真を用意してコロンビアの一部を紹介しました。このような機会を下さってありがとうございました。

以下、参加してくれた学生や留学生の感想です。

I really like these kind of event. You get to know about other countries culture and discover things in common. Also, the food is very delicious. I hope to participate in another tea party like this.

"You make life in Japan easier"

「Very おもしろい、そして私は好きです」



Thank you very much for organizing a friendly event, where we are all one family. You make life in Japan easier.

The food was delicious. I got to know many different food and how to eat them! Lots of fun!!

Very おもしろい、そして私は好きです。

I enjoyed it, thanks for throwing this party for students to enjoy and share the most wonderful experiences together and again. ありがとうございます。

コロンビアのココア(?)をいただきました。けっこう苦味があって不思議な味でした。みんな(紹介する国の)写真を飾って楽しかったです。



### 3-3 国際理解教育

府中第7中学校の「国際理解教育」で留学生が講師に!

—互いに得難い経験を共有—

昨年11月27日に府中第7中学校の1年次の教室では、中国、エジプト、ブラジル、ロシア、イタリアの5カ国の留学生による自国紹介の授業が展開されました。

この中学校では、総合学習の時間に「国際理解—世界の中の自分」というテーマで、100名の1年生が5グループに分かれ、各人テーマを決めて1年かけて調べ学習し、発表するという取り組みをしています。その一環として、上記の国の留学生に、自国の多様な文化や習慣を紹介する授業をしてもらいたいとの依頼がありました。それぞれの国の留学生に頼んでみると、自国の紹介を通じて子どもたちと交流し、同時に日本を理解する一助にもなると大喜びで引き受けてくれました。

その日一日講師を勤めた留学生は、自国の歴史、言語、食文化等について準備した資料を基に熱のこもった授業をし、中学生たちは、これまで調べた情報をもとに多くの質問をしました。やはり、直接留学生から聞く話は、本や資料で得た知識とは異なり、おもしろいし、心に残ったようでした。

以下に、中学生から寄せられたお礼の手紙のいくつかを紹介します。

麻春禄様

府中市立府中第七中学校  
1年3組 佐々木 夏奈

先日はお忙しい中、私たち1年生の中国グループによる交流のため貴重なお時間をさいいただきありがとうございました。

私はむかえにいく時、あまりお話ができなかったのですが、最後に送りにいく時はいろいろ話ができ少し距離が近くなったようでした。うれしかったです。中国クラスのみならず話ができよかったですと言っていました。

あと、中国に日本の物があることにびっくりしました。

私も漫画を読んだりするので、ブリーチの話が出た時はとてもうれしかったです。

私はこの交流で少し話してみるだけで距離が近くなることをして、中国の人と日本人が積極的に話したりしてほしいです。

この交流で学んだことを調べ学習にどんどん活かしていきたいです。

最後に、麻春禄さん、本当にありがとうございました。

レヴィ・アンジェロ・ヴァスコンセロス様  
府中市立府中第七中学校  
1年3組 森 徹也

先日はたいへんお忙しい中、ぼくたち1年生ブラジルグループの交流会のために貴重なお時間をいただき、本当にありがとうございました。

当日は、ぼくたちの質問に対して、ていねいに答えていただき、とてもうれしかったです。ぼくは、当日アンジェロさんの話を聞いて自分が調べた内容以外のことも知ることができてよかったです。とくに、ブラジルではペットにすることはできないけれど、動物のなかでオオカミが人気があるときいておどろきました。また、自分の質問にも答えてもらえてよかったです。子供の生活は、本やインターネットを使ってもなかなか調べられませんでした。でも、アンジェロさんに答えてもらって調べられなかったことがわかりました。ブラジルの子供は男子がよくサッカーをやっている女の子はあんまりやらないことにおどろきました。また、バレーボールをやっていることにもおどろきました。とくに学校のことはよくわかってよかったです。そのなかでも日本とちがってブラジルの学校は午前と午後にわかれていることにおどろきました。当日アンジェロさんから聞いたことから今まで調べていた内容を少しかえてやってみようと思っています。

今回の交流会で学んだことを活かして、これからも調べ学んでいきたいと思っています。

最後になってしまいましたが、お世話になったレヴィ・アンジェロ・ヴァスコンセロスさんに改めてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

### 3-4 国際交流事業報告

#### 2007年度国際交流事業

#### 「日本文化交流会」と留学生友好交流のための懇談会「国際交流の夕べ」開催さる!!

恒例の国際交流事業が、2007年12月14日(金)午後2時から8時まで、大会館と国際交流会館交流ホールにおいて、大学と支援の会の共催で開催されました。

「日本文化交流会」では、昨年同様、「着物体験教室」、「華道教室」、「茶道教室」、「将棋・囲碁教室」、「折り紙・墨絵教室」の5つの体験教室を開きました。留学生は、自分の興味にまかせて、それぞれの教室に参加し、初めて体験する日本文化を楽しみました。

一番人気は着物で、50人以上の女子学生、男子学生が着物を着せて頂き、互いに写真を撮ったり、キャンパスを散歩したりと、喜びもひとしおだったようです。今年はプロの美容師さんまで協力していただき、世界中の美男・美女が着物を着て外大に集まったようでした。その他の教室も、落ち着いた雰囲気先生方の丁寧な指導のもと、日本文化の一端を味わっていました。

夜6時から、日頃留学生を支援、協力して下さっている奨学財団、地域の方々、教職員、日本人チューター等と留学生の交流・友好を広げる場として、大会館で「留学生のための交流・友好の集い」を開催しました。

留学生課長司会の第一部は、学長、支援の会会長の挨拶の後、来賓紹介、乾杯、懇談を含め30分で終わり、留学生司会の第2部が始まりました。留学生によるギター演奏、歌と踊りの発表、支援の会による福引き、先生と職員、日本人学生、留学生が入り交じっての演奏や歌で場は盛り上がり、あっという間に終わりの時間の8時となりました。

名残は尽きませんでした。皆2007年度の終わりを、共に楽しく過ごすと共に、新しい年が明るく最良の年となることを祈念しつつ幕を閉じました。

また、同日3時～5時まで交流会館補食室で、会員の五十嵐さんによるお寿司パーティーが開かれました。狭い部屋でしたので35人の予約制でしたが、倍以上の留学生が集まり、お寿司職人だった五十嵐さんの握る、新鮮でおいしいお寿司を楽しみました。以下に参加した留学生たちの感動の声をお伝えします。



## 願いがやっと

蘇 瑩 (中国)  
特別聴講生

2007年12月14日東外大の日本文化交流会に参加しました。

中国語には「百聞は一見に如かず」という諺がありますが、日本文化について興味を持っている私は日本語を勉強して以来、ずっと自分の心で、日本文化を体験しようと思っていましたが、今回、支援会の先生方が開催された交流会のおかげで、願いがやっと叶いました。

午後の2時、着物の着付けが始まりました。その会場に入ると、すぐテーブル上の鮮やかな振袖や髪飾りに引き付けられました。それから、先生たちに親切に着物の着方や歴史を説明していただき、振袖をきせたり、髪を結ったりしていただいて本当に感動しました。40分後鏡の中の身なりがきちんとした私を見ると、自分でも信じられなくて、とてもうれしかったです。

着物を着ている写真をたくさん撮ってもらってから、「墨絵教室」に入りました。墨絵を一度もかいたことのない私は 最初、多分何もかけないだろうと思ったので、どきどきしていましたが、先生の指導の下で、45分後竹の絵が出来上がりました。

墨絵をかくのは初めての体験だったので、そんなに上手だとはいえませんが、先生と一緒に墨絵をもって、写真をとる時に心からうれしく思いました。

次は箏の体験をしました。中国の箏なら少しはできるのですが、日本の箏はまったくできないということに気がつきました。外見が大体同じ箏は、実は、糸の数や爪の形や弾き方など、全く違う所がいっぱいあります。先生の詳しい説明と紹介を通して、日本の箏について多少分かるようになりました。中国と日本では、よく似ているものでも、文化によって、中身が違うものがいっぱいあるの

ではないでしょうか。このような文化交流を通して、両国の友情と理解を深めることは有意義であると強く感じました。

最後に、折り紙と寿司の試食などの活動に参加しました。楽しい時間はまたたく間に過ぎてしまいました。支援会の先生方はお互いの国の文化を尊重し合ってください、留学生生活を支えて下さっています。また、一人一人に対して親切に付き合ってください、私にとって、本当に有難いことだと思います。今回の体験は日本文化のいい勉強になったので、きっと忘れられない貴重な思い出になると思います。

## 言葉のイメージを着てみて

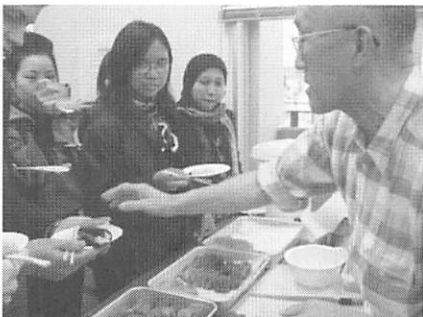
キンジュセエンコ・ヤン・アレクセヴィッチ  
(ロシア)  
留日センター留学生

お寿司、着物などという言葉はいろいろな言語に定着して世界共通である。私の母国語であるロシア語も例外ではなく、普通に通じるのである。言葉としては理解できるが、実際にこういったものと触れることが少なく、どうしてもイメージが違ってくる。

12月14日に、日本文化を代表する様々な行事が行った。私も参加することにした。着物を着るのは初めてだった。外国人である私にとってそれは、とても印象的だった。昔から現代にいたるまで発展してきた日本人の精神を感じることができたかのような気がする。

日本で生活をする、毎日、自分にとって新しいことを発見する。日本社会全体にしても日本人の伝統にしてもそうである。しかし、着物を着るといったような機会が非常に珍しい。留学生にこういうチャンスを与えていただき、私は深く感謝する。是非、このような行事が続いて欲しい。

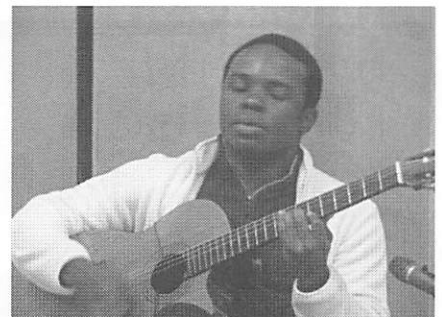
お寿司をふるまい、丁寧に説明を加える五十嵐さん(会員)。



感無量って、こういう事?とお寿司を頼るアヤさん(ロシア)。



交流・友好の集いでギターを奏でるジェリーさん(ナイジェリア)。



## 着物でプリンセス

ヴォクホヴァ・リュドミラ・アンドレエヴナ  
(ロシア)

留日センター留学生

着物は本当に美しいものです！確かに着物は普通の服ではなく、美術作品のものです！

ですから自分でそんなに美しく、高級なものを着ると、自分のことも変わってくる。なんか自分のことを普通の人間ではなく、プリンセスみたいに感じる。しかも、着物はとてもきつくて、着にくいものなので、背中をまっすぐしないといけない。それで、着物を着ると誇りを感じる。

## 即ち、日本文化をわかること

ペター・サブチェヴィスキー (ブルガリア)

留日センター留学生

僕は、去年の四月の初めに、ヨーロッパにあるブルガリアから来たペターである。今、東京外国語大学留学生日本語教育センターで勉強している。

去年、冬休みの初めに(12月14日)東京外国語大学において行われた日本文化交流会に参加した。そこで様々な体験をして(墨絵をかくこと、和紙で人形を作るなど)、とても楽しくて面白かった。

体験した物のなかで、墨絵を書くのが一番楽しかった。墨絵というのは水墨画のことである。即ち一色で筆を使って、絵画を書くことである。

僕は絵を書くのが本当に下手だ。しかし、優しくて上手な墨絵の先生は一生懸命に墨絵の書き方を教えてくださった。先生のおかげで竹の墨絵を二時間で完成した。

このような体験によって、もっと深刻に日本の文化をわかることができると思う。今後も日本文化交流会があったら是非また参加したいと思う。



茶道体験教室。みな、とても満足げなこの表情！自然な笑顔が素晴らしいですね！

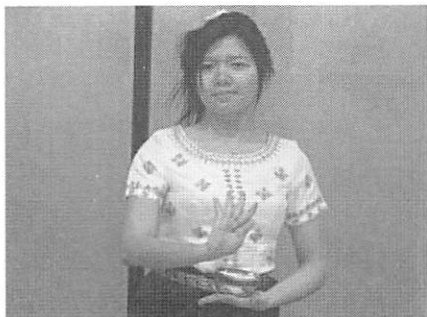


キャンパスの夕暮れに映える着物姿。ロシアのヤンさんとミラさん。



ウズベキスタンのグリさん。着物姿のお母さんを見て、とても嬉しそうな息子さん。

カンボジアの踊りを披露してくれたボレアさん。



墨絵教室は、真剣そのもの。手が震える緊張感伝わっちゃいますか？



華道教室を楽しむ金さん(韓国)。



## 日本文化体験教室「囲碁・将棋」

席主 佐々木 日出男



囲碁・将棋教室

柔道もそうだった。相撲もそうだ。日本の国技がグローバルな広がりの中でそのリーダーシップを外国人が奪う。

そんな思いの中で毎年この日を迎えている。囲碁も将棋も地球規模で広がりを見せている。上海だけで将棋ファンは十万とも三十万ともいわれる。相撲のモンゴル勢の如く、突出している。

それもルーツを辿れば一人の中国人アマ棋士の長年の生きざまがあった。「あそこは例外です」と堀口弘治プロ七段。12月14日、今年も外語大「国際交流の夕べ」の「将棋サロン」に来てくれた。先年、イスタンブール工科大学等トルコの大学での指導対局に臨んだ国際派棋士。英語で将棋を教えられたたったひとりのプロ棋士。府中市在住をよしみにはせ参じてくれた。

定刻午後2時囲碁も将棋も開始。囲碁は外語会メンバーでイタリア語OBの宗像学氏。アマチュア六段格。待っていた留学生は、二、三人。

静寂が支配して緊張が走る。この瞬間の中に広く大きな文化の空気があるのだ。見えない世界を読みと経験で次の一手を指す。定跡も技も真剣さの中で昇華し、具体的にはすべてはこの一手でしかない。

留学生は当然目から鱗。尊いのはこの時すでに確かな未来への第一歩を歩みだしたことだ。「習いある手筋」という。しっかりと教わった人ほど強いものはない。そこには、まやかしのきかないあまりにも明快な「勝負」がある。理路整然と「解説」する指導講師は留学生の成長を喜び、待っている。

### 3-5 節分の集い

留学生が子どもたちと一緒に鬼退治！

東京で珍しく雪になった1月23日の午後、府中市新町文化センターでの節分の集いに留学生3人が参加しました。その時の模様を会員の秋山祐子さんが記事にしてくれました。

## 留学生は親善大使！

会員 秋山 祐子

平成20年1月23日は東京は珍しく雪になりました。留学生の皆さんに来て欲しい、とセンターの担当者から言われ、留学生支援の会を通して3人の留学生が来て下さいました。節分の集いに来るのは、近所の小学生や幼稚園生とのお母さんたち、100人以上例年集まると聞いて、新町文化センターに関わっていた私も驚きました。

当日は、留学生を私が車で送る予定でしたが、雪のため変更してタクシーを予約して行ってみると、役員の他は1人も参加者がいませんでした。どうなることかと思って打ち合わせや準備をしていたところ、少しずつお母さんに連れられた子供達が集まりはじまりました。

役員の挨拶の後すぐにイエメンのワヒーブさんが自己紹介し、その後ペットボトルをボールで倒すボーリングを始めました。何人かの子供達が低い舞台上がり、お名前は？の質問に答え、ボールを持ち、他の待っている人は応援します。ところがワヒーブさんが子供の名前の発音を間違えて応援する子供達に伝えたので、子供達は戸惑っていましたが、不思議なことにこれがまた面白らしく、その変な名前のまま大きな声で応援し、会場は楽しそうな笑い声でいっぱいになりました。

次はコロンビアのアンドレスさん。日本でいうバットマン、目のまわるゲームでみなの中によろけながら行くものでしたが、その格好が愉快でみな笑い転げました。そしてスペインのカルロスさんの出し物も終わり、赤鬼と青鬼に向かって子供達が豆を食べながら投げつけ、写真を撮り終わろうとしたとき、5、6人の小学生がカルロスさんのところに寄って来て握手して下さいと、また別の男子小学生が顔のピアスを「これなーに？」と不思議そうに聞いていました。

3人の留学生たちは自分の出番が終わった後もその場に残り、みなと一緒に楽しんでくれました。終わりには子供と同じように駄菓子と参加賞をもらっていました。いくつになっても駄菓子は楽しく懐かしいものです。

### 3-6 大相撲初場所観戦記

平成20年1月27日(日)、留学生52人、幹事3人の総勢55人で春場所千秋楽を観戦しました。



申し込み開始から2日で50枚の留学生分が一杯になり、ウェイティングリストの名前が増え、相撲人気を再認識しました。22カ国からの留学生が、満員御礼の国技館の中で日本人と共に千秋楽の熱戦を楽しみました。

## 日本の大切な部分

アマガラン・ドウルグーン (モンゴル)  
留日センター留学生

日曜日の相撲はありがとうございました。本当に忘れられない経験でした。相撲を見ることによって、本当の日本の文化の大切な部分を見ることができてとてもうれしいです。

私はモンゴル人ですから日本人みたいに相撲に興味を持っています。そんな時に、一番面白い相撲を見て本当にラッキーです。国技館でどこにも売っていない特別なお土産、カレンダーなどをもらいました。

留学生支援の会はいつも楽しいこと考えて私たちの日本での生活を面白い経験いっぱいにしてくれますね。

## 相撲が抱える対照

ジョシュア・ロジャス (アメリカ)  
留日センター留学生

東京場所の最終日、1月27日に私は初めて相撲を観に行きました。その日の2時頃、モンゴル人二人とアメリカ人一人と一緒に出発して、混雑した電車の中でお喋りしながら両国駅へ向かいました。近づけば近づくほど込んで来たが、やっと着いたら降りられて、国技館への散歩をし始めた。

国技館に達したら、最初の印象に残る光景を見ました。たまに力士が人道を通ってくるや否や、どんなに痩せていても、どんなに軽い地位でも、観衆の多数はパッと回って、高そうなカメラのシャッターを押しました。アメリカでは、あまり有名ではない人を撮影しようなんて思わないから、その日の対照の中に、この日米の違いは第一でした。

国技館に入ったら、まず、その所自体の美しさに感動しました。やっぱり相撲は大切ななと思いました。そして席へ行こうとすると、まず弁当屋さんを通過して、和風の伝統に和風の食べ物が似合うように思ったが、10メートルしか進まなかったら、ものすごく長い列を

見つけました。こんなに多くの人々が並んでいる所を見たら、実はびっくりしました。何百本というアメリカンドッグやコカコーラを渡していた洋食店でした。伝統的な行事で伝統的な店の隣にアメリカンドッグがあることは、明らかで面白い対照だと思いました。

最後に、内部の静かさを気付きました。試合の最中でも、ささやいても聞こえるほど静かでした。そうではない時は主に2つありました。まず、私が写真を撮るために立ったら、ずっと後ろに座っていた人(たぶんイギリス人)に叱られた時と、最後の試合です。最後に朝青龍と白鵬が戦った時は騒音があまりにもひどかったです。もちろん、その瞬間は楽しくてわくわくさせたが、前との対照は面白いと思いました。

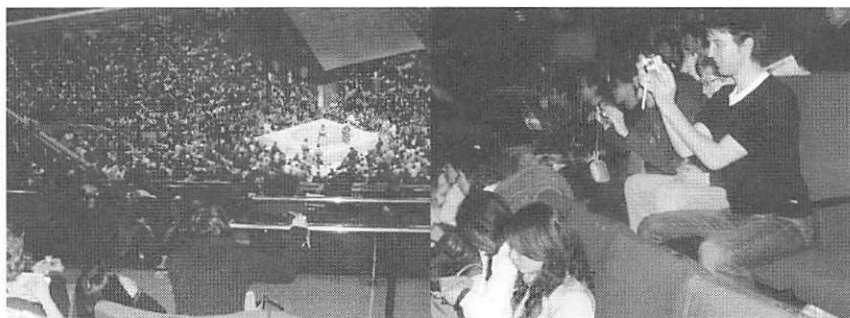
要するに、相撲の観覧を経験してよかったと心から思っています。非常に楽しかったし、色々な面白い観察ができました。今度、機会があれば、必ずまた行きます。

## 初めて見た相撲

ディニ・マリスカ (インドネシア)  
日研生

初めて日本に来た時から日本語や日本文化についてのことを前よりもっと知りたいと思いました。その理由で、色々な日本文化活動や日本名所の観光旅行に参加し始めました。東京外国語大学で勉強していて留学生支援の会を通して色々な日本文化活動や日本名所の観光旅行に参加できます。この留学生支援の会が行う文化活動や観光旅行のおかげで日本の文化についてもっと分かるようになりました。

日本文化についてのことだと話せば多分一番日本らしいのは相撲だと思います。なぜかと言うと、相撲は昔から日本人に伝統的なスポーツで大人気があったとされていますから。それに今日世界中で相撲試合が行われても相撲は元々本当に日本で生まれたスポーツなのです。ですからこの時留学



土俵、力士の熱戦、国技館の歓声と初めてだらけで、盛り上がる留学生たち。

生支援の会の誘いで最後の日の1月27日の両国国技館で行われた大相撲大会を絶対に見ないといけないと思いました。

この大相撲大会は私にとって初めての相撲大会でしたから見に行く時にはちょっと心配して緊張しました。試合はどうなるか、お相撲さんはどうやって相撲をするか、どうやって優勝者が分かるか、そのことが分からなかったら試合がつまらなくなるか、色々な質問が頭の中にたくさん出てきました。でも、この相撲試合を見た後、そのような質問は全部もう答えられました。答えは相撲が面白くてとても楽しいスポーツなのです。

相撲について詳しくないですから相撲さんの中で誰か一人でもぜんぜん知りませんでした。相撲試合表を委員会さんにもらったのおかげで、試合が行うときに今誰が試合するか順番に詳しく説明されたので分かるようになりました。今回の試合は二つレベルに分けられたことが分かりました。幕下と十両というレベルがあります。一番面白い試合は最後の幕内の試合でした。この試合は白鵬さんが朝青龍さんに対しました。二人とも同じレベルにいて13回勝って1回負けました。東からは白鵬さんでしたが西からは朝青龍さんでした。この試合の前に朝青龍さんが絶対勝つということがよく聞こえていました。でも、すごく面白くて素晴らしかった試合の結果は白鵬が勝ちました。そのときアリーナの中ですごく大応援の叫んだ声があちらこちらから聞こえました。私もそのとき大きい声で白鵬さんに「白鵬さん、いつかインドネシアに行って下さい」ということを応援で叫びました。この叫びは白鵬さんに届くか分かりませんでした。とりあえず、この試合はすごく素晴らしかったです。きっと忘れません。試合の後、私は白鵬さんのサインのコピーをすぐ買いました。インドネシアに帰るときにはきっと大切なお土産でいい思い出になります。

この大相撲試合を見たおかげでまた一つ日本文化についてのことが分かるようになりました。相撲についても少し詳しくなりました。試合で白鵬さんが頑張っていたことを見たら、私も今から日本語や日本文化の勉強でもっと頑張りたいと思います。私の初めて見た相撲はとて楽しくてすごく良かったです。



## 新規にご入会いただき ありがとうございます

次の方々が新規にご入会下さいました。  
今後の活動への参加や、支援の会へ忌憚のないご意見をよろしくお願い申し上げます。

**平成19年度新規入会者**（平成19年12月1日～平成20年2月10日）\*敬称略、50音順  
星野利夫、大久保一成

（万一、お名前に間違いがありましたらお詫びいたします。その場合は当会までお知らせください幸いです。）

## ご寄付の御礼

次の方々からご寄付をいただきました。ご協力いただきまして、ありがとうございました。略儀ながら、本会報にて深くお礼申し上げます。

**会員寄付者**（平成19年4月1日～平成19年11月30日、こちらの手違いで前会報に未記載となった分。お詫びいたします。）\*敬称略、50音順

浅野尚文、池谷満、池永郁夫、石井米雄、板久恭子、市川友子、伊藤彰、井上東一・久美子、猪鼻光子、植木麗子、上野幸江、大森堅五、小野美登里、恩田卓茂、角田秀夫、金丸則子、喜田美樹、北村みどり、挙市玲子、小泉正康、小島照恵、五島大介、小松紘一郎、笹岡太一、佐々木日出男（敏之）

（平成19年12月1日～平成20年2月10日）  
\*敬称略、50音順 浅田幸彦、池端雪浦、亀山郁夫、鈴木玲子、田中武夫、都築秀之、中島剣山、中村博、藤森雅子（以上、一般寄付、緊急貸付基金寄付を含む）

（万一、お名前に間違いがありましたらお詫びいたします。その場合は当会までお知らせください幸いです。）

**ご協力いただき、ありがとうございました**

### 3-7 4月期バザーについて

## Bazaar 2008

願

ご協力をお願いします！  
4月期バザー開催に  
向けて

以下の通り、留学生のためのバザーを実施いたします。本年もご協力どうぞよろしくお願いいたします。

またバザー用品の仕分け作業や、準備をする人手が足りません。お手伝いいただける方、ご連絡をお待ちしております。

1. バザー用品受付日時 4月10日(木)～18日(金)
2. バザー期間 4月21日(月)～25日(金)
3. 場所 留学生支援の会連絡室
4. バザーへの物品
  - 各種辞書、日本文化・歴史に関する書籍、文学作品、日本語教育、日本語学習関連書籍など
  - 台所用品(小型の鍋、フライパン、トースター、電気炊飯器など)
  - 日常生活品(タオル、毛布、布団、食器、衣類、電気製品、保存のきく食品など)  
※衣類や布ものは、新品同様を希望
  - 国際交流事業の一環としての「着物・着付け」用男性羽織・袴など振り袖一式  
※古着可、ただし使用可能なもの
5. 送付先 東京外国語大学留学生課気付  
東京外国語大学留学生支援の会  
住所 〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1 TEL 042-330-5759
6. 送料 恐れ入りますが、従来通り送料のご負担をお願いいたします。また宅配便をご利用の場合は、お手数ですが「午後便」をご指定下さい。
7. お願い バザーの人手が足りません。ご協力を！  
バザー用品の物品仕分けや、準備をする人手のご協力お待ちしております。

## EXPERIENCE



### 4. ホームビジット&ステイ

#### 4-1 ホームステイ受入れ体験

##### ゼイナブさんとの時間

幹事 舘 浩道

エジプトのゼイナブさんとは、年末から連絡を取り合っていたのですが、最終的に1月7日の午後3時に我が家にやってきて、1泊して翌8日朝まで滞在しました。

事前の話合いでは、友だちも一緒に来るように云ったのですが、日程が変わったりして友だちの都合がつかなくなり、一人で泊まることになりました。

我が家では、家庭料理のバラ寿司を一緒に作っ

たり、小学2年の孫娘が漢字を教えたりして、楽しく過ごしました。

翌朝は1日遅れの「七草粥」を食べてもらい、ゼイナブは「フル」という豆スープを作ってくれました。インゲン豆のような豆(フル)を煮込み、味付けは塩味だけでしたが、美味しかったですよ。エジプトではラマダンの夜にはパンとともに、この豆スープを食べるようです。

今日は丁度「府中英語クラブ」の例会の日だったので、ゼイナブを例会に連れて行き、エジプトのことなどを英語で紹介してもらって楽しいひとときを過ごし、その後もお餅を持ち寄って、ちょっとしたお正月のパーティーをして楽しくすごしました。あんこ餅、きなこ餅、海苔餅などを「美味しい」と云って食べていました。

以下は、ゼイナブが書き残していったメッセージです。

## ありがとう、館さん一家と孫娘さん

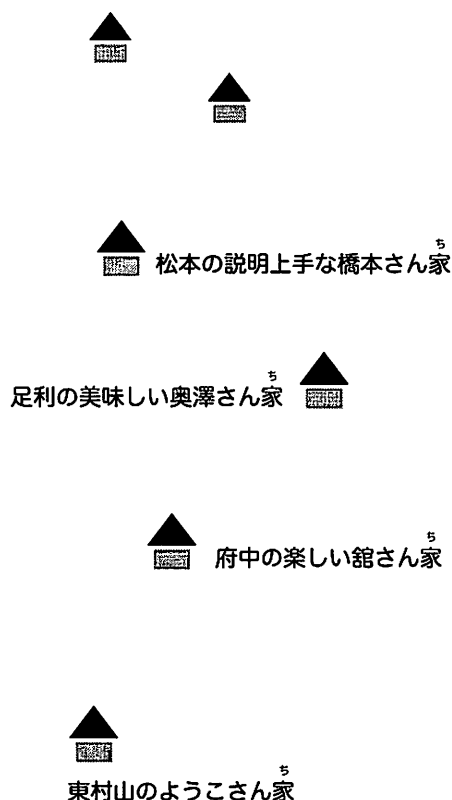
昨日から今日まで色々な楽しいことがあります。昨日着いたあとでお母さんと料理作ったり、テレビも一緒に見たり、日本語でも話したりしました。そのあとたちさんの孫とも漢字を復習しました。

今日みんな早く起きて、一緒に料理も作ってそれから、朝ご飯を食べました。色々な経験をとりました。つまり和室で自分でベッドを作りました。本当にたくさん新しい言葉を覚えましたね。

家族の気持ちとかんじています。この一宿は本当に楽しかったです。ありがとうございます。

(2008年1月8日)

ゼイナブ (エジプト)  
ISEP



## 4-2 ホームステイ体験記

### 奥澤さんのお宅にて

スメタニア・エレナ (ロシア)  
日研生

足利市の本当に忘れられない3日間となりました。あっという間に過ぎたことは言うまでもありません。その短い期間に様々な所に連れてたり、色々面白い話をしたりしていただいて、発見に溢れる旅でした。

例えば、足利学校という有名な所ですが、私達は昔の生徒のように自分の日本語能力をこころみたくて、テストを受けようとしてしました。中級や上級はもちろん、初級の問題もなかなか難しかったです。確かに日本語の勉強はこれからだとおもいました。とても楽しかったです。

最終の日には、国際遺産となった東照宮に連れて下さいました。徳川家康の廟所の豪華さは印象に残りました。

お父さんもお母さんもとても親切で、歓迎していただきました。本当にお世話になりました。

到着日にはお母さんは私達のためにわざわざボルシチというロシアの料理を作って下さいました。その他にもおいしい家庭料理を一杯食べました。

縁があったら、もう一度奥澤さんのお宅を訪れていきたいと思います。

### 松本の橋本さん

アヤ (ロシア)  
ISEP

1月の3日、私は松本に着きました。少し食べて私達は色々な話をしました。

次の日、私達は世界で非常に有名な松本城に行きました。その城と日本の歴史について、橋本由紀子さんはいろいろな説明をしてくれました。そして城を見て、少しお茶を飲んで家に帰りました。家で一緒に晩御飯を作りました。私は初めて天ぷらを作りました。

5日、いろいろな所に行きました。山のあるお寺に行きました。景色は素晴らしかったです。

最後の日は長野に行きました。長野で大変有名な善光寺というお寺に行きました。その日はお寺が込んでいましたけど、私達はその中に入って、真っ暗のホールを渡って、天国のドアを触りました。

松本と長野が大好きになりました。夏の時もう一度是非行きたいと思います。



## 東村山のようにさん

トゥーチェ (トルコ)  
ISEP

こんにちは、私はトゥーチェです。12月の23日から28日までようさんの家に泊まりました。色々な所にいたり、おいしい料理を食べたり、映画を見たり、おしゃべりしたりしました。すごく楽しかったです。日本の文化や生活について、色々なことが知ることができました。ようさんと知り会って、本当にうれしいです。帰国する前に、ようさんを是非訪問したいです。お世話になりました。どうもありがとうございます。



### HOME VISIT & STAY

ホームビジット、ホームステイ受け入れに関心のある方は是非、当会にお問い合わせ下さい。

## VOICE I

### 5. 留学生の声



#### 金色の春 一三年間の収穫

李宇霞 (中国)  
大学院生

教師になるのは幼いころからの夢でした。大学卒業後、教師として中国燕山大学で5年間日本語教師として仕事に従事したことで、学生に教えることは常に自分も勉強し向上心を持たないと教えることは難しいと痛感し、自分自身も成長してきたように思います。その中で教育実践と教育理論の基本的なことの大切さを強く感じました。特に2002年9月から11月まで国際交流基金での短期研修をきっかけに、今まで以上に日本語教育について深く興味を持つようになりました。中国国内では日本語教育に関する教育実践と理論について構築されていない事から、修士課程での専門的研究テーマと研究のための文献資料が非常に少ないのが現状でした。親の反対を押し切って日本への自費留学を決意しました。

修士課程では無我夢中で勉強し、母国では感じられなかった新しい経験をし、あっという間に日

本へ来て3年経ち、「時間が経つのは早いものですね」と感嘆せざるを得ないです。異国での私費留学の生活を振り返って見ると、さまざまな厳しい経験と社会における人間の姿を見てきました。私は学問の勉強と同時に人間社会の勉強もでき、忍耐力と強い精神力が養われ、大きく成長できたように思います。

三年前の来日当時の京成線の電車から見た風景はまるで昨日のような気がします。2005年3月31日、私は自分で持てる限界ぎりぎりまでの荷物を運んで成田空港の入国管理官の審査を受け、日本の国土に着いて、知識を求める留學生活も同時に幕を開けました。初めて日本という新鮮で魅力的な国土を踏んだ時、夢に近づいている感じがしてとても興奮し、教育以外の知識も全て吸収しようと、闘志が胸に込み上げてくるのを感じていました。しかし、現実に日本での社会生活に入ってから、生きていくための生活にいろいろな問題に直面し、多くを解決しなければならないと痛感しました。狭いアパートで、寒い冬風に吹かれて、窓の隙間から冷たい風は入り込み揺れている窓で勉強していた日々を送っていました。最初は日常生活最低限の家具などの入手方法も分からなく、どうすればいいのか困窮しておりました。その時、外国語大学留学生支援会に巡り合いました。会の方々から日本社会での生活で有益で貴重なアドバイスをいただいただけでなく、大事な生活用品や家具まで手に入れることが出来たことに、今も感謝の気持ちでいっぱいです。生活の面においてはいろいろ支えてもらえ、援助があったからこそ、大学院での勉強に集中できました。この時から私にとって充実した毎日が得られ、勉強に対する向学心が一層高まり、学問への追求を極めたいと、最近思うようになってきております。

今日もキャンパスを歩きまわって、見慣れた木や建物にも「ありがとう」と言いたくなります。今、私は金色の春を迎えて、収穫した“実”を確実に身に付け、更なる美しい未来を迎えるために学問への追求と向上心を高めていき、これから飛び立つ若い人々へ私が外語大で学んだこと伝えていきたいと思います。



## 日本の精神、生け花

金賢精 (韓国)  
教員研修生

日本に来てもう1年4ヶ月にもなりました。いろいろな所に旅行に行き、そして大勢の人に出会って、とても楽しい時間を過ごしました。1年半の研修なので、私に残された時間はあとわずか2ヶ月間です。最近では日本で撮った写真を見ながら、日本で過ごした時間を思い出してみます。毎日が私にとってとても大切な瞬間で、良い経験でした。

特に留学生支援の会は、私に忘れられない経験を与えてくれました。小田原城見学、相撲見学、すしパーティーなどたくさんの思い出を作る機会をいただきましたが、その中でも2週間に一度開かれる生け花教室は、美しさに対する日本人の心遣いを教えてくれました。韓国人も勿論、美しいものが大好きですが、美しいものに接する精神の違いがあることを、生け花教室を通して感じるようになりました。韓国人は、生きているものが自然そのままであることが好きですが、日本人は自然をもっと美しく見せるように人口的な技術を加える。そして自然と人間の調和を求める。私の狭い美に対する観点かもしれませんが、いつも自然が美しい姿を維持し続けるために、手を休めない日本人を見ながら、そう思いました。

生け花を生けるときには、木の枝と葉っぱと花の調和を考え、花の顔が向く方向を考え、生け花の作品がひとつの小さい自然になることが一番大事でした。私が生けた生け花を見ながら、先生はいつも笑顔で「花と花の顔がお互いに向かい合うように花の顔の方向を変えましょうね」とおっしゃいました。生け花教室で私が教えていただいたのは、花を生ける方法だけではなく人間に向かい合う方法だったのです。

## My experience in Japan

ワヒーブ・アル・アリアニ (イエメン)  
研究生

I remember when I was a child that I used to see very lovely calendars at the Photo Studio shops in my local neighbourhood. They were calendars made by famous Japanese photography companies with very

sharp images of Japanese gardens or beautiful Japanese women wearing Kimono. Also, many products in the local market were sold as either “genuine Japanese” or “non-genuine non-Japanese). It was very important for people to buy genuine Japanese products to ensure the things they buy live longer and work better. As the days passed, I came to meet Japanese people at work place and learn more about Japan. It was not only the Garden, Kimono and Genuine products, I had a feeling of a rich culture and many more things to explore.

Although I met many Japanese people, and travelled to different places, I still had in the back in my mind the beautiful Japanese gardens. They were so different and beautiful that I never imagined I would travel and see Japan. As the time passed I had a growing interest in visiting Japan and I was very lucky to get awarded a scholarship from the Japanese Ministry of Education to do my PhD in this country.

From the very first day of preparing for travel here, all preparations went very smoothly, flight booking, information on residence and various logistics of the trip. I could feel the care and efficiency in the job that the Japanese do. Upon arrival I was received at the airport with my colleagues and a transport was organized to the residence. I was so impressed how things were moving so smoothly till I arrived smoothly in my residence.

People were very welcoming and warm. That was not a surprise as the Japanese people I met before were also very friendly. At Tokyo University of Foreign Studies, many students had not only opportunity to learn at a very well equipped university with many qualified teachers, but also to get involved in many cultural events organized by the voluntary association of the university. I can assure you that many students have been to Kimono dressing events, Japanese food, visits to museums, Sumo wrestling and various activities that give the students the feel of the Japanese culture. Like other students, I was also given an opportunity to introduce my culture and organize a tea ceremony from my country.

Moreover, I have been very much surrounded with great support provided by many staff at the university as well as a tutor who was dedicated to help me settle down in Japan easily. A lot of advice and help was extended to me to find housing for my family who is coming soon. I feel very much comfortable and grateful for all the help and support I have received. I am looking forward to complete my studies in Japan which is being a very enjoyable and beneficial experience.

(前文要約) 私の日本体験

子どもの頃、近所の写真屋さんで素敵なカレンダーをよく見ていた。日本の有名なカレンダー会社が作った物だが、日本の庭やきれいな着物を着た婦人の写真の付いたカレンダーだった。また、多くの商品がマーケットで日本製品として売られていた。日本の物は、上等で長持ちするので皆が買ったがった。時が経つにつれて、職場で日本人に会い、日本について多くのことを学んだ。庭園や着物、本物の日本製品だけでなく、豊かな日本文化を探求したいと感じた。

多くの日本人と知り合い、またいろんなところを旅しても、やはり私の心の中にはきれいな日本庭園が残っていて、どうしても日本を見てみ

たいとの思いが強くなった。

時が経ち、日本に国費留学生として留学する機会を得た。留学の準備の最初の日から、飛行機の予約、日本での住居などすべてが順調に進み、私は日本人の仕事の効率のよさ、気遣いなどを感じることができた。成田到着と同時に、仲間と共にこれから住む交流会館へ間違いなく行けるようきちんとセットされていた。すべてがスムーズに行くことに大変感銘を受けた。人々はとても暖かく歓迎してくれた。

東京外大では、設備のよく整ったキャンパスで、すばらしい先生方のもとで学ぶことができるだけでなく、ボランティアの支援の会が提供する、様々な行事に参加することができる。これまで多くの学生が着物を着たり、日本料理を味わったり、博物館見学や相撲見学をするなど、日本の文化に触れる機会をエンジョイしてきている。また、自国の文化を紹介する機会も与えられる。私もその機会を得た。

さらに、大学の教職員、チューター等も私が容易に日本にとけ込めるよう支えてくれている。今度も、私の家族を迎え入れるための住まい探しに、様々な援助と助言をしてくれた。おかげで私はいつも安心していられる。こういう有益で楽しい経験を生かしながら、私は、日本留学の所期の目的である博士号を取得できるよう頑張りたいと思う。



イエメンからのワビープ（左）さんとコロンビアからのアンドレスさん（右）の東京散策は、続く！！

# VOICE II



## 6. 会員の声

### 私の書道教室、雑感

会員 山口隆

留学生支援の会の書道担当としてもう5～6年たちました。昨年4月から支援の会そのものがキャンパス内の新しい寄宿舍第2号館に移転した関係で書道に来る留学生や東外大生がめっきり減ってしまいました。毎週金曜の3時から2時間程度やっていますが、今までは大学本館の出入りの多い場所でしたので、毎回平均10名程度参加がありましたが、今は4～5名程度になり寂しくなりました。特に寄宿舍以外の留学生や東外大生の参加がほとんどなくなり、以前のような交流がなくなってしまいました。最大の理由は現在の場所が大学本館から余りに遠く、まるで「陸の孤島」の感があるからです。

書道に来てくれる留学生にはいろいろなタイプがありますが、大きく分けると大体次のタイプに分かれます。

- 1) 日本文化にあこがれて書道に来る留学生。来る前に一年程度勉強してきた学生が多い。初めて筆を持つ人もいます。大体学期の初めに大勢来るケースが多く、元気のよい活発な学生ほど次第に来なくなります。
- 2) 大学に書道部がないために私どもの教室に来る学生たち。腕自慢の人がかなりいます。
- 3) 普段、授業で神経をすり減らしている院生が気休めに来るケース。
- 4) 日本語が未だ十分でなかったり内気で友達ができない学生、ホームシックにかかったりして書道に「癒し」を求めてくる学生など、さまざまです。みんな外国や日本の地方から来ている「外国・内国留学生」だから、心のうちはみな寂しいんですね、きっと。

テキストは日本の小中学生用の漢字・平仮名交じり6文字を楷書や行書で練習しますが、中には変体仮名や半切などの大きな用紙に挑戦する留学生もいます。最近ではフランスから客員教授として来日し寄宿舍にお住まいのご夫人までこれ、書



道だけでは飽き足らず「墨絵」に熱中されており、私は経験がないので一緒に勉強しています。

書道のよいところは「頭を使う必要のない」ことです。日ごろ外国語と格闘している学生諸君にはうってつけの「癒し」となること、そして精神を集中できることです。が、私は生来「寂しがりや」で、習字の最中もみんなと楽

しくワイワイやるほうが好きなので、是非是非、もっともっと多くの留学生や東外大生に押しかけてきてほしいのです。

ご意見、感想など、**会報**への  
**投稿募集** どしどし  
お寄せ下さい

当会へのご意見、ホームページやイベントに関する感想文など、会報への投稿をお待ちしております。お気軽にお問い合わせ下さい。



# ACTIVITIES



## 7. これからの活動

1

2008年3月20日(木・祝日)

### 春の鎌倉

毎年恒例のこの企画。鎌倉在住の会員のご協力を得て、大変好評です。

会員の皆様も是非ご参加下さい。

日時 2008年3月20日(木・春分の日祝日)

募集人数 留学生 25名予定

コース 新宿小田急—藤沢乗り換え鎌倉—  
八幡宮—建長寺—亀ヶ谷—昼食—  
鎌倉—江ノ電で長谷寺—大仏—鎌倉  
(コースは変更する場合があります)

参加ご希望の方は、当会連絡室または下記までご連絡下さい。042-330-5761(梅田)

参加費 3,500円(会員の方のご参加は実費となります)

お願い 前日までのキャンセルは連絡室または下記までご連絡下さい。042-330-5761(梅田)  
080-3080-3007(中嶋)

## 8. 幹事会

下記の通り、幹事会を開催いたしました。

平成19年度第7回幹事会 1月20日(日)

平成19年度第8回幹事会 2月17日(日)



皆様からのご協力を  
留学生の笑顔につなげます！！

継続的な  
ご支援を！

会員の皆様には、これまで支援活動へのご協力、ご支援をいただき、ありがとうございます。

2月10日現在、5割弱の方々に会費納入いただきました。御礼申し上げます。と同時に納入をお忘れの方、納入率アップには是非ご協力下さい。平成19年度も引き続き会員としてご支援いただきたく、本年度会費未納の方々には同封の振込用紙にてお振込下さいます様、お願い申し上げます。振込用紙にメールアドレスをお書き添えいただければ、今後、当会の各種イベントなどの情報をお届けしていきます。

一般会員：年会費 3,000円

協賛会員：年会費 20,000円



納入率6割強を  
目指しています！

平成19年度会費納入は  
3月31日(月)まで

□ □ □ 編集後記 □ □ □

通常2月に発行しております本会報ですが、今回事業により発行が遅れました事、お詫び申し上げます。

<お問い合わせ先>

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1  
東京外国語大学 留学生課気付(谷川、梅田)

TEL: 042-330-5759 FAX: 042-330-5762

E-mail: tufs-issa@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/is-tufs/>